

(19) 日本国特許庁(JP)

(12) 公開特許公報(A)

(11) 特許出願公開番号

特開2004-238310

(P2004-238310A)

(43) 公開日 平成16年8月26日(2004.8.26)

(51) Int.Cl.⁷

F I

テーマコード (参考)

A 6 1 K 7/00

A 6 1 K 7/00

K

4 B 0 1 8

A 2 3 L 1/30

A 2 3 L 1/30

B

4 C 0 8 3

A 6 1 K 7/035

A 6 1 K 7/035

4 H 0 0 3

A 6 1 K 7/06

A 6 1 K 7/06

A 6 1 K 7/075

A 6 1 K 7/075

審査請求 未請求 請求項の数 4 O L (全 54 頁) 最終頁に続く

(21) 出願番号 特願2003-27792 (P2003-27792)

(22) 出願日 平成15年2月5日(2003.2.5)

(71) 出願人 000119472

一丸ファルコス株式会社

岐阜県本巣市浅木318番地1

(72) 発明者 近藤 光子

岐阜県本巣郡真正町浅木318番地の1

一丸ファルコス株式会社内

(72) 発明者 若松 香苗

岐阜県本巣郡真正町浅木318番地の1

一丸ファルコス株式会社内

Fターム(参考) 4B018 LB01 LB02 LB05 LB06 LB08

MD61 ME06 ME10 ME14 MF01

最終頁に続く

(54) 【発明の名称】化粧料組成物又は飲食品

(57) 【要約】

【課題】新規で安全なリパーゼ活性促進剤、活性酸素消去剤、化粧料組成物又は飲食品を提供することを課題とする。

【解決手段】レモンガラス抽出物を含有するリパーゼ活性促進剤、活性酸素消去剤、化粧料組成物又は飲食品を提供するものである。

【効果】リパーゼ活性を促進し、活性酸素も有意に消去・抑制すること。更に脂性肌・ニキビ・湿疹・肌荒れを改善し、肌に張り・ツヤを与えることができ、皮膚や頭皮の老化防止に有効である。又、人又は動物に対して内用又は外用しても安全であり、あらゆる形態の製剤（医薬品類、医薬部外品類、化粧品類、食品類）に応用することができる。

【特許請求の範囲】

【請求項 1】

レモングラス抽出物を含有することを特徴とするリパーゼ活性促進剤。

【請求項 2】

レモングラス抽出物を含有することを特徴とする活性酸素消去剤。

【請求項 3】

請求項第 1 項から第 2 項記載のリパーゼ活性促進剤、活性酸素消去剤の内、何れか 1 種以上を含有することを特徴とする化粧品組成物。

【請求項 4】

請求項第 1 項から第 2 項記載のリパーゼ活性促進剤、活性酸素消去剤の内、何れか 1 種以上を含有することを特徴とする飲食品。 10

【発明の詳細な説明】

【0001】

【発明の属する技術分野】

本発明は、レモングラス抽出物を含有するリパーゼ活性促進剤、活性酸素消去剤、化粧品組成物又は飲食品への応用に関するものである。

【0002】

【従来の技術】

皮下組織にある体脂肪は、健康を守るために大切な役割を担い、特にエネルギー貯蔵、蛋白質の節約、体温調節、月経の発現・維持等があるが、その体脂肪が過剰に蓄積されると様々な病気を引き起こし、例えば、体脂肪過多による影響として、高脂血症、引いては、動脈の壁にたくさんの脂肪が沈着し、動脈の弾力性を低下させ硬くする。このような状態を動脈硬化と言ひ、狭心症や心筋梗塞にも至ると言われ、又、高血圧症も引き起こし、脳卒中や心臓発作の原因にもなる。その他、糖尿病や体重増加による骨関節障害等も起こすとも言われている。 20

【0003】

従って、脂肪を減少させることが健康には非常に重要であり、脂肪を減少させるためにリパーゼ酵素を使用し、トリアシルグリセロールが脂肪酸とグリセリンに分解させることが行われ、例えば、基剤中にカプセル化したリパーゼ自体を化粧品に加えたり（例えば、特許文献 1 参照）、又、ヨクイニン抽出物が皮脂分泌促進剤として利用すること（例えば、特許文献 2 参照）。又、ラン科植物：紫蘭抽出液が脂性肌やニキビに有効であること（例えば、特許文献 3 参照）。更に皮脂抑制剤としては、経口投与にて酢酸シプロテロン等があるが、効果が十分でなかったり、発疹等の過敏症状や吐き気を引き起こし、副作用の点で問題があり、経口及び経皮投与した場合に安全なリパーゼ活性促進剤は見い出されていないのが現状である。 30

【特許文献 1】特開昭 62-220598 号公報

【特許文献 2】特開昭 60-174723 号公報

【特許文献 3】特開昭 57-102809 号公報

【0004】

尚、食事制限によって体脂肪を減少させることもできるが、1 日の摂取エネルギー量及び栄養要素のバランスがくずれ、逆に体重を劇的に減少させ、その後、体重の逆戻りが大きくなる等、健康・体調を害する恐れがあり、又、皮膚外用剤として用いた場合、皮膚に必要な水分が除かれ、カサツキや肌荒れを起こす恐れもあり、問題点が多い。 40

【0005】

又、近年、生体内における活性酸素の生成とそれによって起こる様々な影響（疾患）が報告されている。一般的に、この活性酸素は Activated oxygens と呼ばれ、 O^{2-} 、 H_2O_2 、 $\cdot OH$ 、化学ルミネセンスの 4 種に大別され、いずれも強力な殺菌作用を有し、生体の自己防衛に関与する重要な物質と捕らえ、例えば、細菌・ウイルス、異物等外敵（抗原となるもの）が生体内に侵入すると、まず血液中の食細胞である好中球・単球・マクロファージが貪食作用を開始し、次に、食細胞の胞体中に貪食された異物 50

類を溶解するために、活性酸素が生産され、そして、この生産された活性酸素は、貪食物の溶解にあたる他、一方では、直接的に細菌や異物等の外敵に対して、殺菌作用を及ぼし、外敵から防御する役割を果たしている。つまり、免疫機能を働かせる手前で抗原物質を排除する働きを持っているのである。

【0006】

しかしながら、この自己防衛のための活性酸素も過剰に生産・分泌されると、正常な細胞までも溶解・刺激され、様々な障害反応をもたらしてしまう。最近では、活性酸素によって誘発される疾患・疾病も数多く報告され、例えば、血液中のコレステロール等の油脂類が活性酸素によって酸化され、脳、心臓における動脈硬化による血管障害（脳卒中、心筋梗塞等）や脳外傷時において、血栓等による血流障害や、急激な一過性の萎縮による血管内の虚血状態を起し、そのために酸素欠乏状態を生ずると言われている。よって、この状態では、血管内のキサンチンデヒドロゲナーゼがキサンチンオキシターゼに変化し、血管内の血液中に大量の活性酸素を発生させて、血管壁の損傷を起し致命的な障害を与えると言われている。

【0007】

更に、皮膚と活性酸素の関係について見れば、例えば、皮膚は直接的に外界と接する器官であるため、環境因子を受け易い状態で、紫外線や放射線等によって、活性酸素が皮膚に過剰状態が持続すると、生体膜リン脂質の不飽和脂肪酸等と反応し、過酸化脂質が生成されてしまう。この生成された過酸化脂質によって、動脈硬化、発癌、老化、膜の破壊、蛋白変性等を起し、又、皮膚炎症、浮腫、シワ等も引き起こしてしまう。更に、活性酸素の過剰による疾患として、美容上の観点から見ると、例えば、疱疹状皮膚炎、レントゲン皮膚炎、火傷、外傷、日光性皮膚炎、接触性皮膚炎、湿疹、アトピー性皮膚炎等を生じたり、皮膚の張り・ツヤを減少させると言われている。

【0008】

従って、生体内に存在する過剰な活性酸素を消去する物質が求められ、これまでに様々な疾患の予防又は改善をするために、サイコ、芍薬、半夏、桂皮、大棗、オウゴン、人参、甘草、生姜をラジカル消去剤として用いること（例えば、特許文献4参照）。又、ハマメリス、チョウジ、メリッサ、エンメイソウ、シラカバ、セージ、ローズマリー、南天実、キナ、エイジツ、バジル、エレウテロコック、イチョウをスーパーオキシド消去剤として用いること（例えば、特許文献5参照）が知られている。

【特許文献4】特開平2-193930号公報

【特許文献5】特開平3-157334号公報

【0009】

尚、レモングラスについては、レモングラスの精油が抗菌効果があること（例えば、非特許文献1参照）。又、レモングラスの葉又は茎の水蒸気蒸留水又は／及び水溶性溶媒抽出物には過酸化脂質抑制作用、保湿作用、抗菌作用があることも記載されている（例えば、特許文献6参照）。

【特許文献6】特開平7-277920号公報

【非特許文献1】季刊 *aromatopia* 第10号（1995）p. 82-84

【0010】

【発明が解決しようとする課題】

しかしながら、前記したリパーゼ活性促進成分又は活性酸素消去物質については、処方系中での安定性や溶解性が悪く、澱や分解による異臭、着色が生じ、又、生体レベルにおける効果も充分ではなく、更に皮膚にかぶれを起こす等安全性の面でも問題があり、満足すべきものではなかった。

【0011】

【課題を解決するための手段】

こうした事情に鑑み、本発明者らはリパーゼ活性促進剤、活性酸素消去剤として有用性のある様々な植物を開発のテーマとし、その結果、レモングラス抽出物にリパーゼ活性促進作用、活性酸素消去（SOD）作用を有することを確認し、よって、リパーゼ活性促進剤

10

20

30

40

50

、活性酸素消去剤として利用すること。又、脂性肌・ニキビ・湿疹・肌荒れを改善すること。更に肌に張り・ツヤを与えることができる安全なリパーゼ活性促進剤、活性酸素消去剤、化粧品組成物又は飲食品を提供することをもって、本発明を完成するに至った。

【0012】

【発明の実施の形態】

尚、本発明で使用する「レモングラス（別名：香茅、レモンソウ、レモンガヤ）」とは、イネ科（Gramineae）、オガルカヤ属（Cymbopogon）の植物：レモングラス「Cymbopogon citratus (A. DC.) STAPF (= Andropogon citratus A. DC. = A. schoenanthus LINN. = A. roxburghii NEES = A. ceriferus HACK. = A. nardus LINN. = Schoenanthumamboinicum RUMPH.)」の花、花穂、果皮、果実、茎、葉、枝、枝葉、幹、樹皮、根茎、根皮、根、種子又は全草を用いるが、その他、同属種の（C. confertiflorus STAPF）、（C. giganteus）、コウスイガヤ（別名：シトロネラソウ）（C. nardus）、（C. pendulus NEES EX STEUD. W. WATSON）、オガルカヤ（C. tortilis = Andropogon. Camus）、ジャワシトロネラソウ（C. winterianus）等を用いることもできる。

【0013】

本発明で使用するレモングラスの抽出物とは、植物体の各種部位（花、花穂、果穂、果皮、果実、茎、葉、枝、枝葉、幹、樹皮、根、根茎、根皮、種子又は全草）をそのまま或いは粉砕後搾取したもの。又は、そのまま或いは粉砕後、溶媒で抽出したものである。

【0014】

尚、レモングラス抽出物の抽出溶媒としては、供する製品の使用目的、種類、或いは後に行う加工処理等を考慮した上で選択すれば良いが、通常では、水、メタノール、エタノール、プロピルアルコール、イソプロピルアルコール、ブタノール、イソブタノール、ペンタンジオール等の低級アルコール或いは含水低級アルコール、プロピレングリコール、1, 3-ブチレングリコール、グリセリン等の多価アルコール或いは含水多価アルコール、アセトン、酢酸エチル等の各種有機溶媒の中から選ばれる1種若しくは2種以上の混液を用いるのが望ましい。但し、使用目的により有機溶媒の含有が好ましくない場合においては、水のみを使用したり、或いは抽出後に除去しやすいエタノールを採用し、単独又は水との任意の混液で用いたりすれば良く、又、搾取抽出したものでも良い。更に、各々の溶媒抽出物が組み合わされた状態でも使用できる。

【0015】

又、レモングラスを酵素分解による加水分解抽出の他、酸・アルカリによる加水分解を行ったものも使用できる。

【0016】

尚、製造方法は特に制限されるものはないが、通常、常温、常圧下での溶媒の沸点の範囲であれば良く、抽出後は濾過又はイオン交換樹脂を用い、吸着・脱色・精製して溶液状、ペースト状、ゲル状、粉末状とすれば良い。更に多くの場合は、そのままの状態で行うことができるが、必要ならば、その効果に影響のない範囲で更に脱臭、脱色等の精製処理を加えても良く、脱臭・脱色等の精製処理手段としては、活性炭カラム等を用いれば良く、抽出物質により一般的に適用される通常の手段を任意に選択して行えば良い。又、抽出後の抽出液に対して、エタノール、プロピレングリコール、1, 3-ブチレングリコール、フェノキシエタノール、ペンタンジオール等の有機溶媒、又はこれらの任意の混液を添加することもできる。得られた抽出液はそのままでも利用可能であるが、濃縮、乾燥してペースト状、粉末状として利用することもできる。

【0017】

本発明のレモングラス抽出物は、リパーゼ活性促進剤、活性酸素消去剤、化粧品組成物又は飲食品へ含有でき、その含有量としては特に規定するものではないが、リパーゼ活性促進剤、活性酸素消去剤、化粧品組成物又は飲食品の種類、品質、期待される作用の程度に

よって若干異なり、通常、製剤全量中、固形分換算して、0.0001質量%以上（以下、%で表わす）、好ましくは0.01～50.0%が良い。又、浴用剤の場合では、200～300Lの浴湯に投じて同程度の濃度になるように処方考慮すれば良い。

【0018】

又、本発明のリパーゼ活性促進剤、活性酸素消去剤、化粧品組成物又は飲食品の剤型・形態は任意であり、カプセル、粉末、顆粒、固形、液体、ゲル、気泡、乳液、クリーム、軟膏、シート等の形態で配合して用いることができる。

【0019】

その利用分野は、例えば、各種の内用・外用製剤類（動物用に使用する製剤も含む）全般において利用でき、具体的には、アンプル、カプセル、丸剤、錠剤、粉末、顆粒、固形、液体、ゲル、気泡、エマルジョン、シート、ミスト、スプレー剤等利用上の適当な形態の
1) 医薬品類、2) 医薬部外品類、3) 局所用又は全身用の皮膚用化粧品類（例えば、化粧水、乳液、クリーム、軟膏、ローション、オイル、パック等の基礎化粧品、洗顔料や皮膚洗浄料、マッサージ用剤、クレンジング用剤、除毛剤、脱毛剤、髭剃り処理料、アフターシェーブローション、プレシェーブローション、シェービングクリーム、ファンデーション、口紅、頬紅、アイシャドウ、アイライナー、マスカラ等のメイクアップ化粧品、香水類、美爪剤、美爪エナメル、美爪エナメル除去剤、パップ剤、プラスター剤、テープ剤、シート剤、貼付剤、エアゾール剤等）、4) 頭皮・頭髮に適用する薬用又は／及び化粧用の製剤類（例えば、シャンプー剤、リンス剤、ヘアトリートメント剤、プレヘアトリートメント剤、パーマネント液、染毛料、整髪料、ヘアトリック剤、育毛・養毛料、パップ剤、プラスター剤、テープ剤、シート剤、貼付剤、エアゾール剤等）、5) 浴湯に投じて使用する浴用剤、6) その他、腋臭防止剤や消臭剤、防臭剤、制汗剤、衛生用品、衛生綿類、ウェットティッシュ、歯磨き類、口中清涼剤、含嗽剤、7) 飲食品類等が挙げられる。

【0020】

更に飲食品類としては、口腔用組成物（ガム、キャンデー等）やかまぼこ、ちくわ等の加工水産ねり製品、ソーセージ、ハム等の畜産製品、洋菓子類、和菓子類、生めん、中華めん、ゆでめん、ソバ等のめん類、ソース、醤油、タレ、砂糖、ハチミツ、粉末あめ、水あめ等の調味料、カレー粉、からし粉、コショウ粉等の香辛料、ジャム、マーマレード、チョコレートスプレッド、漬物、そう菜、ふりかけ、又は各種野菜・果実の缶詰・瓶詰等の加工野菜・果実類、チーズ、バター、ヨーグルト等の乳製品、みそ汁、スープ、果実ジュース、野菜ジュース、乳清飲料、清涼飲料、酒類等の飲料、健康食品等、一般的な飲食品類への使用が挙げられる。

【0021】

尚、本発明のリパーゼ活性促進剤、活性酸素消去剤、化粧品組成物又は飲食品は、前記の必須成分に加え必要に応じ、本発明の効果を損なわない範囲内で、下記に例示する成分や添加剤を任意に選択・併用して製造することができ、製剤中への含有量は、特に規定しないが、通常、0.0001～50%が好ましい。

【0022】

(1) 各種油脂類

アボガド油、アーモンド油、ウイキョウ油、エゴマ油、オリーブ油、オレンジ油、オレンジラファ油、ゴマ油、カカオ脂、カミツレ油、カロット油、キューカンバー油、牛脂脂肪酸、ククイナツツ油、サフラワー油、シア脂、液状シア脂、大豆油、ツバキ油、トウモロコシ油、ナタネ油、パーシク油、ヒマシ油、綿実油、落花生油、タートル油、ミンク油、卵黄油、パーム油、パーム核油、モクロウ、ヤシ油、牛脂、豚脂、スクワレン、スクワラン、プリスタン又はこれら油脂類の水素添加物（硬化油等）等。

【0023】

(2) ロウ類

ミツロウ、カルナバロウ、鯨ロウ、ラノリン、液状ラノリン、還元ラノリン、硬質ラノリン、カンデリラロウ、モンタンロウ、セラックロウ、ライスワックス等。

【0024】

(3) 鉱物油

流動パラフィン、ワセリン、パラフィン、オゾケライド、セレシン、マイクロクリスタンワックス等。

【0025】

(4) 脂肪酸類

ラウリン酸、ミリスチン酸、パルミチン酸、ステアリン酸、ベヘン酸、オレイン酸、リノール酸、リノレン酸、ドコサヘキサエン酸、エイコサペンタエン酸、12-ヒドロキシステアリン酸、ウンデシレン酸、トール油、ラノリン脂肪酸等の天然脂肪酸、イソノナン酸、カプロン酸、2-エチルブタン酸、イソペンタン酸、2-メチルペンタン酸、2-エチルヘキサン酸、イソペンタン酸等の合成脂肪酸。 10

【0026】

(5) アルコール類

エタノール、イソピロパノール、ラウリルアルコール、セタノール、ステアリルアルコール、オレイルアルコール、ラノリンアルコール、コレステロール、フィトステロール、フェノキシエタノール等の天然アルコール、2-ヘキシルデカノール、イソステアリルアルコール、2-オクチルドデカノール等の合成アルコール。

【0027】

(6) 多価アルコール類

酸化エチレン、エチレングリコール、ジエチレングリコール、トリエチレングリコール、エチレングリコールモノエチルエーテル、エチレングリコールモノブチルエーテル、ジエチレングリコールモノメチルエーテル、ジエチレングリコールモノエチルエーテル、ポリエチレングリコール、酸化プロピレン、プロピレングリコール、ポリプロピレングリコール、1,3-ブチレングリコール、ペンチルグリコール、グリセリン、ペンタエリトリール、トレイトール、アラビトール、キシリトール、リビトール、ガラクトール、ソルビトール、マンニトール、ラクチトール、マルチトール等。 20

【0028】

(7) エステル類

ミリスチン酸イソプロピル、パルミチン酸イソプロピル、ステアリン酸ブチル、ラウリン酸ヘキシル、ミリスチン酸ミリスチル、オレイン酸オレイル、オレイン酸デシル、ミリスチン酸オクチルドデシル、ジメチルオクタン酸ヘキシルデシル、乳酸セチル、乳酸ミリスチル、フタル酸ジエチル、フタル酸ジブチル、酢酸ラノリン、モノステアリン酸エチレングリコール、モノステアリン酸プロピレングリコール、ジオレイン酸プロピレングリコール等。 30

【0029】

(8) 金属セッケン類

ステアリン酸アルミニウム、ステアリン酸マグネシウム、ステアリン酸亜鉛、ステアリン酸カルシウム、パルミチン酸亜鉛、ミリスチン酸マグネシウム、ラウリン酸亜鉛、ウンデシレン酸亜鉛等。

【0030】

(9) ガム質、糖類又は水溶性高分子化合物

アラビアゴム、ベンゾインゴム、ダンマルゴム、グアヤク脂、アイルランド苔、カラヤゴム、トラガントゴム、キャロブゴム、クインシード、寒天、カゼイン、乳糖、果糖、ショ糖又はそのエステル、トレハロース又はその誘導体、デキストリン、ゼラチン、ペクチン、デンプン、カラギーナン、カルボキシメチルキチン又はキトサン、エチレンオキサイド等のアルキレン(C2~C4)オキサイドが付加されたヒドロキシアルキル(C2~C4)キチン又はキトサン、低分子キチン又はキトサン、キトサン塩、硫酸化キチン又はキトサン、リン酸化キチン又はキトサン、アルギン酸又はその塩、ヒアルロン酸又はその塩、コンドロイチン硫酸又はその塩、ヘパリン、エチルセルロース、メチルセルロース、カルボキシメチルセルロース、カルボキシエチルセルロース、カルボキシエチルセルロースナ 40 50

トリウム、ヒドロキシエチルセルロース、ヒドロキシプロピルセルロース、ニトロセルロース、結晶セルロース、ポリビニルアルコール、ポリビニルメチルエーテル、ポリビニルピロリドン、ポリビニルメタアクリレート、ポリアクリル酸塩、ポリエチレンオキサイドやポリプロピレンオキサイド等のポリアルキレンオキサイド又はその架橋重合体、カルボキシビニルポリマー、ポリエチレンイミン等。

【0031】

(10) 界面活性剤

アニオン界面活性剤（アルキルカルボン酸塩、アルキルスルホン酸塩、アルキル硫酸エステル塩、アルキルリン酸エステル塩）、カチオン界面活性剤（アルキルアミン塩、アルキル四級アンモニウム塩）、両性界面活性剤：カルボン酸型両性界面活性剤（アミノ型、ペ
10
タイン型）、硫酸エステル型両性界面活性剤、スルホン酸型両性界面活性剤、リン酸エステル型両性界面活性剤、非イオン界面活性剤（エーテル型非イオン界面活性剤、エーテルエステル型非イオン界面活性剤、エステル型非イオン界面活性剤、ブロックポリマー型非イオン界面活性剤、含窒素型非イオン界面活性剤）、その他の界面活性剤（天然界面活性剤、タンパク質加水分解物の誘導体、高分子界面活性剤、チタン・ケイ素を含む界面活性剤、フッ化炭素系界面活性剤）等。

【0032】

(11) 各種ビタミン類

ビタミンA群：レチノール、レチナール（ビタミンA1）、デヒドロレチナール（ビ
20
タミンA2）、カロチン、リコピン（プロビタミンA）、ビタミンB群：チアミン塩酸塩、チアミン硫酸塩（ビタミンB1）、リボフラビン（ビタミンB2）、ピリドキシン（ビ
タミンB6）、シアノコバラミン（ビタミンB12）、葉酸類、ニコチン酸類、パントテン酸類、ピオチン類、コリン、イノシトール類、ビタミンC群：ビタミンC酸又はその誘導体、
ビタミンD群：エルゴカルシフェロール（ビタミンD2）、コレカルシフェロール（ビ
タミンD3）、ジヒドロタキステロール、ビタミンE群：ビタミンE又はその誘導体、ユ
ビキノール類、ビタミンK群：フィトナジオン（ビタミンK1）、メナキノール（ビ
タミンK2）、メナジオン（ビタミンK3）、メナジオール（ビタミンK4）、その他、必須脂肪
酸（ビタミンF）、カルニチン、フェルラ酸、γ-オリザノール、オロツト酸、ビタミン
P類（ルチン、エリオシトリン、ヘスペリジン）、ビタミンU等。

【0033】

(12) 各種アミノ酸類

バリン、ロイシン、イソロイシン、トレオニン、メチオニン、フェニルアラニン、トリ
プトファン、リジン、グリシン、アラニン、アスパラギン、グルタミン、セリン、システ
イン、シスチン、チロシン、プロリン、ヒドロキシプロリン、アスパラギン酸、グルタ
ミン酸、ヒドロキシリジン、アルギニン、オルニチン、ヒスチジン等や、それらの硫酸
塩、リン酸塩、硝酸塩、クエン酸塩、或いはピロリドンカルボン酸のごときアミノ酸誘
導体等。

【0034】

(13) 植物又は動物系原料由来の種々の添加物

これらは、添加しようとする製品種別、形態に応じて常法的に行われる加工（例えば、粉
40
砕、製粉、洗浄、加水分解、醗酵、精製、圧搾、抽出、分画、ろ過、乾燥、粉末化、造粒、
溶解、滅菌、pH調整、脱臭、脱色等を任意に選択、組合わせた処理）を行い、各種の
素材から任意に選択して供すれば良い。

【0035】

尚、抽出に用いる溶媒については、供する製品の使用目的、種類、或いは後に行う加工処
理等を考慮した上で選択すれば良いが、通常では、水、メタノール、エタノール、プロ
ピルアルコール、イソプロピルアルコール、ブタノール、イソブタノール、ペンタジ
オール等の低級アルコール或いは含水低級アルコール、プロピレングリコール、1,3-ブ
チレングリコール、グリセリン等の多価アルコール或いは含水多価アルコール、アセ
トン、酢酸エチル等の各種有機溶媒の中から選ばれる1種若しくは2種以上の混液を用
いるのが望ましい。但し、用途により有機溶媒の含有が好ましくない場合においては、
50
水のみを使

用したり、あるいは抽出後に除去しやすいエタノールを採用し、単独又は水との任意の混液で用いたりすれば良く、又、搾取抽出したものでも良い。

【0036】

尚、植物又は動物系原料由来の添加物を、全身用又は局所用の外用剤、化粧品類に供する場合、皮膚や頭髮の保護をはじめ、保湿、感触・風合いの改善、柔軟性の付与、刺激の緩和、芳香によるストレスの緩和、細胞賦活（細胞老化防止）、炎症の抑制、肌質・髪質の改善、肌荒れ防止及びその改善、発毛、育毛、脱毛防止、光沢の付与、清浄効果、疲労の緩和、血流促進、温浴効果等の美容的效果のほか、香付け、消臭、増粘、防腐、緩衝等の効果も期待できる。

【0037】

又、飲食品においては、栄養補給、疲労回復、強壮、細胞賦活（細胞老化防止）等の健身並びに美容的效果をはじめ、味覚の改善、色調や芳香、光沢の付与、安定化、増粘、防腐等の目的で使用する事ができる。更にこの他にも、これまでに知られている各原料素材の様々な美容的、薬剤的效果を期待し、これらを組み合わせることによって目的とする効果の増進を図ったり、或いは多機能的な効果を期待した製品とすることも可能である。

【0038】

原料とする具体的な植物（生薬）としては、例えば、アーモンド（へん桃）、アイ（藍葉）、アオカズラ（清風藤）、アオキ（青木）、アオギリ又はケナシアオギリ（梧桐）、アオツヅラフジ（木防已）、アオテンマ、アカシア、アカショウマ（赤升麻）、アカスグリ「果実」、アカツメクサ、アカブドウ、アカミノキ（ログウッド）、アカメガシワ（赤芽柏）、アカミノアカネ又はセイヨウアカネ又はアカネ（茜草根）、アカヤジオウ又はジオウ（地黄）、アギ（阿魏）、アキカラマツ、アキニレ（榔榆皮）、アグアイー・グァスー、アグアヘ（オオミテングヤシ）、アケビ（木通）、アサ（麻子仁）、マルバアサガオ又はアサガオ（牽牛子）、アジサイ（紫陽花）、アシタバ（明日葉）、アズキ（赤小豆）、アスナロ、アセロラ、アセンヤク（阿仙薬）、アチラ（ショクヨウカンナ）、アニス、アビウ、アビウラーナ、アブラナ、アベマキ「果実」、アボカド、アマ、アマチャ（甘茶）、アマチャヅル、アマドコロ（玉竹）、アマナ（光慈姑）、アマランサス（ヒユ、ハゲイトウ、ヒモゲイトウ、センニンコク、スギモリゲイトウ、ホソアオゲイトウ、アオゲイトウ、ハリビユ、アオスズラン、アマラントウス・ヒポコンドリアクス）、アミガサユリ又はバイモ（貝母）、アリストロメリア（ユリズイセン）、アルカナ（アルカンナ）、アルガローボ（キャベ）、アルテア、アルニカ、アルピニア又はカツマダイ（ソウズク）、アロエ（蘆薈）、アロエベラ、アンジェリカ、アンズ又はホンアンズ（杏仁）、アンソッコウ（安息香）、イエローサポテ、イガコウゾリナ（地胆頭）、イカリソウ又はヤチマタイカリソウ（インヨウカク）、イグサ（灯心草）、イタドリ（虎杖根）、イチイ（一位）、イチゴ、イチジク（無花果「果実、葉」）、イチハツ（一初）、イチビ（冬葵子）、イチヤクソウ（一葉草）、イチョウ（銀杏「種子、葉」）、イトヒメハギ（遠志）、イナゴマメ、イヌナズナ（テイレキシ）、イヌビユ（ホナガイヌビユ）、イネ「種子、種皮」、イノンド「種子」、イブキジャコウソウ、イラクサ、イランイラン、イワタバコ（岩蕎麦）、イワヒバ又はイワマツ（卷柏）、インゲンマメ、ウーロン茶、ウイキョウ（茴香）、ウィート（チブサノキ）、ウキヤガラ（三稜）、ウグイスカグラ「果実」、ヒメウイキョウ、ウコン（鬱金）、ウキクサ（浮萍）、ウスバサイシン又はケイリンサイシン又はオウシユウサイシン（細辛）、ウスベニアオイ、ウスベニタチアオイ、ウチョウラン、ウツボグサ（夏枯草）、ウド又はシシウド（羌活、独活、唐独活）、ウニャデガト（ウンカリヤ、キャツクロー）、ウバ茶、ウメ（烏梅「種子、果肉」）、ウラジロガシ、ウワウルシ（クサコケモモ）、ウンシュウミカン（陳皮）、ウンボク、エストラゴン、エゾウコギ（蝦夷五加）、エゾスズラン、エチナシ（ホソバムラサキバレンギク）、エニシダ、エノキタケ（榎茸）、エビスグサ又はカシヤ・トーラ（決明子）、エルカンプレ、エルダーベリー「果実」、エレミ、エリンギ又はプレロータスエリンジ、エンジュ（槐花、槐花米）、エンドウ、オウギ又はキバナオウギ（黄耆）、ナルコユリ又はカギクルマバナルコユリ（黄精）、オウヒササノユキ又はササノユキ、オウレン（黄連）、オオガタホウケン、オ

10

20

30

40

50

オカラスウリ（カロコン）、オオグルマ（土木香）、オオツヅラフジ（防己）、オオバコ
 （車前子、車前草）、オオバナアザミ（祁州漏芦、白頭翁）、オオハシバミ（榛子）、オ
 オハシラサボテン、オオバナオケラ又はオケラ（白朮）、オオバナサルスベリ（バナバ）
 、オオバヤシャブシ「果実」、オオヒラタケ、オオホシグサ（穀精草）、オオミアカテツ
 、オオミサンザシ又はサンザシ（山査子）、オオミヤシ、オオムギ（大麦）、オカ、オカ
 ゼリ（蛇床子）、オクラ「果実」、オグルマ（旋覆）、オクルリヒゴタイ（禹州漏芦、藍
 刺頭）、オタネニンジン又はトチバニンジン（人参）、オトギリソウ又はコゴメバオト
 ギリソウ又はセイヨウオトギリソウ（弟切草）、オドリコソウ（続断）、オナモミ（蒼耳
 子）、オニグルミ、オニドコロ又はトコロ又はナガドコロ（ヒカイ）、オニノヤガラ（天
 麻）、オニユリ又はササユリ又はハカタユリ（百合）、オノエラン、オノニス、オヒョウ 10
 （裂葉榆）、オミナエシ（敗醬）、オユーコ、オランダカラシ（クレソン）、オランダゼ
 リ、オランダビユ、オランダミツバ、オリーブ「果実、種子、葉」、オレガノ、オレンジ
 「果実、果皮」、カイケイジオウ（熟地黄）、カカオ「果実、果皮、種子」、カキ（柿蒂
 「葉」）、カギカズラ（釣藤鈎）、カキドオシ又はカントリソウ（蓮銭草）、カキラン、
 ガクアジサイ、カシア、カジノキ（楮実「果実」）、ガジュツ（莪朮）、カシワ（榲桲、
 榲桲葉）、カスカリラ、カスカラサグラダ、カスミソウ、カセンソウ、カニクサ（金沙藤）
 、カニーワ、カーネーション、カノコソウ（吉草根）、カバ、カバアナタケ、カバノキ又
 はシダレカンバ（白樺）、ガーベラ、カボチャ、カボックノキ「種子」、カホクサンショ
 ウ（蜀椒）、ガマ（蒲黄）、カミツレ又はローマカミツレ、カミヤツデ（通草）、カムカ
 ム（カモカモ）、カラグワ又はヤマグワ（桑椹）、カラー、カラクサケマン、カラスウリ 20
 又はシナカラスウリ（王瓜）、カラスビシャク（半夏）、カラスムギ、ガラナ「種子」、
 カラホオ（厚朴）、カラヤ、ガリュウ、カリン（木瓜）、ガルシニア、カワミドリ、カワ
 ラサイコ（委陵菜、翻白草）、カワヂシャ、カワラタケ、カワラナデシコ（石竹）又はエ
 ゾカワラナデシコ（瞿麦、瞿麦子）、カワラニンジン（青蒿）、カワラヨモギ（茵？蒿）
 、カンスイ（甘遂）、カンゾウ（甘草）、カンタラアサ、カンドリラ、カントウ、カンナ
 、カンラン、キイチゴ（エゾイチゴ、オランダイチゴ、エビガライチゴ、ナワシロイチゴ
 、モミジイチゴ、ヨーロッパキイチゴ）、キウイ「果実、葉」、キカラスウリ（瓜呂根）
 、キキョウ（桔梗、桔梗根）、キク（菊花、シマカンギク、チョウセンノギク）、キクタ
 ニギク、キササゲ（梓実）、ギシギシ（羊蹄根）、キジツ（枳実）、キズタ、キダチアロ
 エ、キダチハッカ、キナ、キナノキ（シンコーナ、アカキナノキ）、キヌア（キノア）、 30
 キハダ（黄柏）、キマメ、ギムネマ・シルベスタ、キメンカク、キャベツ、キャベブ「未
 熟果」、キャラウエー、キュウリ、ギョリュウ（西河柳、てい柳）、キラジャ・サポナリ
 ア、キラヤ、キランソウ（金瘡小草）、キンカン「果実」、キンキジュ、ギンセカイ、キ
 ンブセン、キンマ、キンミズヒキ（仙鶴草）、キンラン、ギンラン、キンリョウヘン、グ
 アペーバ・ヴェルメーリヤ、グアバ「果実」、グアユーレ、クエルクス・インフェクトリ
 ア（没食子）、ククイナッツ、クゲヌマラン、クコ（枸杞、枸杞子、枸杞葉、地骨皮）、
 クサスギカズラ（天門冬）、クズ（葛根）、クスノキ、グースベリー「果実」、クソニン
 ジン（黄花蒿）、クティティリバー、クチナシ（山梔子）、クヌギ（樺ソウ）、クプアス
 、クベバ、クマザサ、クマツヅラ（馬鞭草）、クララ（苦参）、クランベリー「果実」、 40
 クリ「種子、果実、渋皮」、クルクリゴ・ラチフォリア「果実」、グレープフルーツ「果
 実・葉」、クロウメモドキ、クロガネモチ（救必応）、カメバヒキオコシ又はクロバナヒ
 キオコシ又はヒキオコシ（延命草）、クローブ（丁子、丁香）、グンバイナズナ（セキメ
 イ、セキメイシ）、ケイガイ（荊芥、荊芥穂）、ケイトウ（鶏冠花、鶏冠子）、ゲツカビ
 ジン、ゲツケイジュ（月桂樹）、ケナシサルトリイバラ（土茯苓、山帰来）、ゲンチアナ
 、ゲンノショウコ（老鶴草）、ケンポナシ（キグシ）、コウキセッコク、キシユウミカン
 （コウジ、タチバナ、オオベニミカン、フクレミカン、サガミコウジ、ポンカン、サンタ
 ラ（橘皮））、コウシンバラ（月季花）、コウスイハッカ、コウゾ「果実」、コウチャ（
 紅茶）、コウホネ（川骨）、コウホン（藁本、唐藁本）、コウリヤン、コウリョウキョウ
 （高良姜）、コエンドロ「果実」、コオウレン（胡黄連）、コガネバナ（黄ゴン）、コケ
 モモ（越橘）、ココヤシ「果実」、ゴシュユ（呉茱萸）、ゴショイチゴ（覆盆子）、コシ 50

ヨウ（胡椒）、コスモス、コパイババルサム、コーヒー「種子、葉」、コフキサルノコシ
 カケ（梅寄生）、コブシ又はモクレン（辛夷）、ゴボウ（牛蒡、牛蒡子）、コボタンヅル
 、ゴマ（胡麻）、ゴマノハグサ（玄参）、ゴミシ（五味子）、サネカズラ又はビナンカズ
 ラ又はマツブサ、コムギ（小麦）、米又は米糠「赤糠、白糠」、コメ油、コーラ・アクミ
 ナタ「種子」、コーラ・ベラ「種子」、コレウス・フォルスコリ、コロニーリヤ、コロハ
 「果実」、コロンボ、コンズランゴ、コンブ、コンニャク、コンフリー（鱧張草）、サイ
 ザル（サイザルアサ）、サイハイラン、サカネラン（エゾサカネラン）、サキシマボタン
 ズル又はシナボタンヅル又はシナセンニンソウ（威霊仙）、サクラ（オオシマザクラ、ヤ
 マザクラ、オオヤマザクラ、エドヒガシ、マメザクラ、ミヤマザクラ、ソメイヨシノ、タ
 カネザクラ、カスミザクラ、コヒガン、サトザクラ、カンザクラ「葉、花、果実、樹皮（
 桜皮）」）、サ克蘭ボ、ザクロ、ササ、ササバギンラン、サザンカ、サジオモダカ（沢
 瀉）、サツマイモ、サトウキビ、サトウダイコン、サネブトナツメ（酸棗仁）、サフラン
 （番紅花、西紅花）、サボジラ、サボテアマリヨ、ザボン「果実」、サボンソウ、サーモ
 ンベリー「果実」、サラシナショウマ（升麻）、サランシトウ（砂藍刺頭）、サルビア（
 セージ）、サワギキョウ（山梗菜）、サワグルミ（山胡桃）、サンカクサボテン、サング
 レデグラード（クロトン）、サンシクヨウソウ、サンシチニンジン（三七人參）、サンシ
 ュユ（山茱萸）、サンショウ（山椒）、サンズコン（山豆根）、シア（カリテ）、シアノ
 キ「果実」、シイタケ（椎茸）、シオン（紫苑）、シカクマメ、ジキタリス、シクンシ（
 使君子）、シソ又はアオジソ又はチリメンジソ又はカタメンジソ（紫蘇葉、紫蘇子）、シ
 タン、シナノキ、シナホオノキ、シナレンギョウ（連翹）、シメジ（ヒンシメジ、シャカ
 シメジ、ハタケシメジ、オシロイシメジ、ブナシメジ、ホンジメシ、シロタモギタケ）、
 シモクレン（辛夷）、シモツケソウ、ジャガイモ、シャクヤク（芍薬）、シャジン（沙参）
 、ジャスミン（マツリカ）、ジャノヒゲ（麦門冬）、ジュウロクササゲ、シュクコンカ
 スミソウ、シュクシャミツ（砂仁、縮砂）、ジュズダマ、シュロ「果実」、シュンラン、
 ジョウオウヤシ、ショウガ（生姜）、ジョウザンアジサイ（常山）、ショウブ（菖蒲、菖
 蒲根）、ショズク「果実」、シラカシ「種子」、シラン（ビヤッキュウ）、シロゴチョウ
 「種子」、シロツメクサ（クローバー）、シロトウアズキ（鶏骨草）、シロバナイリス（
 ニオイイリス）、シロバナツタ「花」、シロバナルーピン、シロミナンテン（南天実）、
 シンコナサクシルブラ、ジンチョウゲ（瑞香、瑞香花、沈丁花）、シンナモン、シンナモ
 ムム・カッシア（桂皮）、スイカ（西瓜）、スイカズラ（金銀花、忍冬）、スイバ（酸模
 ）、スイムベリー「果実」、スターアップル、ステビア、ストロベリー「果実」、スズサ
 イコ（徐長卿）、スギナ（問荆）、スベリヒユ（馬歯けん、馬歯けん子）、スモモ「果実」
 、スルガラン（オラン）、セイヨウアカマツ「球果」、セイヨウカラマツ、セイヨウキ
 ズタ、セイヨウグルミ、セイヨウサンザシ、セイヨウスノキ、セイヨウタンポポ、セイヨ
 ウトチノキ（マロニエ）、セイヨウナシ「果実」、セイヨウナツユキソウ、セイヨウニワ
 トコ（エルダー）、セイヨウネズ（ジュニパー、杜松）、セイヨウノコギリソウ（ミルフ
 ォイル）、セイヨウバラ、セイヨウフウチョウボク、セイヨウヤドリギ、セイヨウハッカ
 又はセイヨウヤマハッカ、セイヨウワサビ、セキショウ（石菖根）、セッコク（サクラセ
 ッコク、コウキセッコク、オオバナセッコク、オキナワセッコク、ホンセッコク、コチョ
 ウセッコク、シカクセッコク、キバナノセッコク）（デンドロビウム、石斛）、セドロ
 ン（ボウシュウボク）、ゼニアオイ、ヒロハセネガ、セネガ、セリ、セロリ、センキュウ（
 川キュウ）、センシンレン（穿心連）、センダン、センニンサボテン、センナ「果実、葉」
 、センニンソウ（大蓼）、センブリ（当薬）、センボク、ソウカ（草果）、ゾウゲチュ
 ウ、ソシンロウバイ、ソバ「種実」、ソメモノイモ、ソラマメ、ダイオウ（大黃）、大根
 、大豆、ダイダイ（橙皮、枳実）、タカサゴルリヒゴタイ（東南藍刺頭）、タカサブロウ
 （旱蓮草）、タカトウダイ（大戟）、タカワラビ（狗脊）、ダークスイートチェリー「果
 実」、タチアオイ、タチジャコウソウ（タイム、百里香）、タチドコロ（ヒカイ）、タチ
 ヤナギ、タマリンド「種子」、タマネギ、タムシバ（辛夷）、タラノキ「果実、葉、根皮」
 、タラヨウ（大葉冬青、一葉茶、苦丁茶、苦灯茶）、ダリア（テンジクボタン）、タル
 ウィ、タンキリマメ、タンシウチワ、タンジン（丹参）、タンポポ（蒲公英）又はシロバ

10

20

30

40

50

ナタンポポ又はモウコタンポポ、ダンマル、チェリー「果実」、チガヤ「果実、根、芽」、
 チクセツニンジン（竹節人参）、チコリ、チャンカピエドラ（キダチコミカンソウ）、
 チューリップ、チョコノステイ、チョウセンアザミ（アーティチョーク）、チョウセンダ
 イオウ（大黃）、チョウセンニレ（蕪夷）、チョウセンヨモギ（艾葉）、チョレイマイタ
 ケ（猪苓）、チョロギ、ツキミソウ、ツクシサカネラン、ツクリタケ（マッシュルーム）
 、ツチアケビ、ツバキ、ツボクサ、ツメクサ（漆姑草）、ツユクサ（鴨跖草）、ツルアズ
 キ（赤小豆）、ツルツチアケビ、ツルドクダミ（何首烏）、ツルナ（蕃杏）、ツルニンジ
 ン（四葉参）、ツルマメ、ツワブキ、デイコ、テウチグルミ、デュベリー「果実」、テン
 グサ、テンチャ（甜茶）、テンダイウヤク（烏藥）、トウガ（冬瓜子）、トウカギカズラ
 、トウガラシ（番椒）、トウキ（当歸）、トウキンセンカ（マリーゴールド）、トウサイ
 カチ、トウナベナ（川断）、トウモロコシ又はトウモロコシ毛（南蛮毛）、トウネズミモ
 チ（女貞子）、トウリンドウ又はチョウセンリンドウ（竜胆）、トクサ（木賊）、ドクダ
 ミ（十薬）、トコン（吐根）、トシシ又はマメダオシ又はネナシカズラ、トチュウ（杜仲
 「樹皮、葉、根」）、トネリコ（秦皮）、トマト、トラガント、トリアカンソス「種子」
 、トリュフ（セイヨウショウロタケ）、トルコキキョウ、トルメンチラ、ドロノキ、トロ
 ロアオイ、トンカマメ、ナイゼリアベリー「果実」、ナガイモ又はヤマノイモ（山藥）、
 ナギイカダ（ブッチャーブルーム）、ナギナタコウジュ、ナズナ、ナタネ、ナタマメ又は
 タテハキ（刀豆）、ナツミカン、ナツメ（大棗）、ナニワイバラ（金桜子）、ナベナ（続
 断）、ナメコ、ナンキンマメ（落花生）、ナンテン（南天実）、ナンバンカラムシ（苧麻
 ）、ニオイスマレ、ニガキ（苦木）、ニガヨモギ（苦艾）、ニクズク、ケイ又はニッケイ
 又はセイロンニッケイ又はヤブニッケイ（桂皮）又はケイシ（桂枝）、ニョホウチドリ、
 ニラ（韭子）、ニワトコ（接骨木「果実、花、茎、葉」）、ニンニク（大蒜）、ヌルデ（
 五倍子）、ネギ、ネムノキ又はネブ又はネビ又はネムリノキ又はジゴクバナ（合歡）、ノ
 アザミ（大薊）、ノイバラ（営実）、ノウゼンカズラ（凌霄花）、ノゲイトウ、ノコギリ
 ソウ、ノダケ（前胡）、ノバラ、ノモモ、パイナップル「果実」、ハイビスカス（ブッソ
 ウゲ、フウリンブッソウゲ、ローゼル）、ハイリンドウ、ハウチワ、パウ・ドーセ、ハカ
 マウラボシ（骨碎補）、ハクカユマトウ、ハクサンチドリ、ハクセン（白癬皮）、ハクル
 ベリー「果実」、ハコベ（繁縷）、ハシバミ（榛子）、ハシリドコロ（ロート根）、バジ
 ル、ハス（蓮、蓮肉、蓮子）、パセリ（オランダゼリ）、ハダカムギ、バタタ、ハチク又
 はマダケ（竹茹）、パチョリー、ハッカ（薄荷、薄荷葉）、ハッシュウマメ、ハトムギ（
 ヨクイニン）、ハナスゲ（知母）、バナナ、ハナハッカ、ハナビシ（シツリシ、シシツリ
 ）、パニラビンズ、パパイヤ、ハハコグサ（鼠麴草）、パハロボボ、ハブ「全草、茎、葉
 」、パブリカ、ハマカキラン、ハマゴウ又はミツバハマゴウ（蔓荊子）、ハマスゲ（香附
 子）、ハマビシ（シツリ子）、ハマナス（マイカイ花）、ハマボウフウ（浜防風）、ハマ
 メリス、パーム、バラ（薔薇）、バラータ、バラタゴムノキ、ハラタケ（ハラタケ、シロ
 オハラタケ、ウスキモリノカサ）、ハラン、パリウルス（セイヨウハマナツメ）、パリ
 エタリア、ハルカンラン、バルサミーナ（ツルレイシ、ニガウリ）、ハルニレ（榆皮、榆
 白皮、榆葉）、バルバスコ、ハルリンドウ、ハンダイカイ（胖大海）、パンノキ、ヒオウ
 ギ（射干）、ヒカゲツルニンジン（党参）、ピーカンナッツ、ヒガンバナ（石蒜、蔓珠沙
 華）、ヒグルマダリア、ヒゴタイ、ヒシ（菱実）、ピスタチオ、ビート、ヒトツバ（石葦
 ）、ヒトツバエニシダ、ヒナギク（デージー）、ヒナタイノコズチ（牛膝）、ヒナチヨド
 リ、ヒノキ、ヒバ、ヒマシ、ヒマワリ、ピーマン、ヒメウズ（天葵）、ヒメガマ（香蒲）
 、ヒメマツタケ（カワリハラタケ、ヒロマツタケ）、ヒメムヨウラン、ピメンタ「果実」
 、ビャクシ、ビャッキュウ、ヒユ「果実」、ヒヨコマメ、ヒラマメ、ヒロウドアオイ、ヒ
 ロハオキナグサ（白頭翁）、ビワ「果実、葉、茎」、ビンロウ（大服皮、檳榔子）、プー
 アル茶（普？茶）、フウトウカズラ（南籐）、フキ、フキタンポポ（款冬花、款冬葉）、
 フジバカマ（蘭草）、フジマメ（扁豆）、フジモドキ（チョウジザクラ、芫花）、ブドウ
 「果実、果皮、種子、葉」、ブナ、フユムシナツクサタケ（冬虫夏草）、ブラジルカンゾ
 ウ、ブラジルニンジン、ブラジルヤシ、ブラジルゾウゲヤシ、ブラックカーラント「果実」
 、ブラックベリー、ブラーニェン、プラム「果実」、フルセラリア、ブルーベリー（セ

10

20

30

40

50

イヨウヒメスノキ)、プルーン、フローラルブランカ、ブロンドサイリウム、ブンドウ (緑豆)、ヘーゼルナッツ、ヘチマ、ヘツカラン、ベニバナ (紅花)、ヘネケン、ペラドンナ、ベリー「果実」、ペルセア、ペルビアンバーグ、ペレスキア・グランディフォリア、ベンケイソウ又はイキクサ (景天)、ポイセンベリー「果実」、ホウキギ又はニワクサ又はネンドウ又はハハキギ・コキア (地膚子)、ホウサイラン、ホウセンカ (鳳仙、急性子、透骨草)、ポウテリア・サポタ、ポウテリア・ルクマ、ホウノキ、ホウレンソウ、ホオズキ (登呂根)、ホオノキ (和厚朴、朴)、ボケ (木瓜)、ホソバアブラギク (苦ヨク)、ホソバオグルマ、ホソバナオケラ (蒼朮)、ホソバノキリンソウ (景天三七)、ホソババレンギク、ボダイジュ (菩醍樹)、ボタン (牡丹「花、葉、茎、樹皮」)、ボタンピ (牡丹皮)、ホップ、ホホバ、ボリジ (ルリチシャ)、ボルドー、ホワートルベリー「果実」、ホンオニク (肉じゅ蓉、大芸)、ホンセッコク (鉄皮石斛、雀山石斛)、マイズルテンナンショウ (天南星)、マイタケ (舞茸)、マオウ (麻黄)、マカ、マカデミアナッツ、マーガレット (モクシュンギク)、マクリ (海人草)、マグワ (桑白皮「樹皮、葉」)、マグノリア・スプレングリ、マサランズーバ、マサランズーバ・ド・セアラ、マシェイラ・デ・ボイ、マシュア (タマノウゼンハレン、キュウコンキンレンカ)、マタタビ (木天蓼)、マツカサ、松「葉、樹皮、根」、マッタ・オーリョ、マツタケ (松茸)、マツホド (茯苓)、マティコ (コルドンシージョ)、マヨラム (ハナハッカ)、マルバノジャジン (苦参)、マルベリー「果実」、マルメロ、マレイン (ピロウドモウズイカ)、マンガ、マンゴスチン、マンサーニャ (アンデスカミツレ)、マンシュウグルミ、マンダリン「果実」、マンネンタケ (靈芝)、キジツ (枳実「果実」)、ミシマサイコ (柴胡)、ミズオオバコ又はミズアサガオ (竜舌草)、ミゾカクシ (半边蓮)、ミソハギ (千屈菜)、ミチヤナギ又はニワヤナギ (篇蓄)、ミツガシワ、ミツバ、ミドリサポテ、ミドリハッカ、ミモザ、ミョウガ、ミラクルフルーツ「果実」、ミルラ、ミロバラン、ムギワラギク、ムクゲ (木槿)、ムクノキ、ムクロジ (延命皮)、ムニャ、ムラサキ (紫根)、ムラサキシキブ又はオオムラサキシキブ (紫珠)、ムラサキトウモロコシ、ムラサキナツフジ (昆明鶏血藤)、メガカンサ・オープンティカ、メシマコブ (桑黄)、メハジキ (益母草)、メボウギ、メマツヨイグサ (月見草)、メラロイカ、メリッサ、メリロート、メロン「果実」、モウコヨモギ、モウソウチク、モクキリン、モジェ (コショウボク)、モチノキ、モッコウ (木香)、モミジバダイオウ、モモ (桃「葉、種子、花、果実」)、モヤシ、モレロチェリー「果実」、モロヘイヤ (黄麻)、ヤカワムラサキイモ、ヤクチ (益智)、ヤクヨウガレーガ、ヤグルマソウ (ヤグルマギク)、ヤグルマハッカ、ヤーコン、ヤーバサンタ、ヤシャブシ (矢車) 又はヒメヤシャブシ又はオオバヤシャブシ「果実、果皮、果穂」、ヤチヤナギ、ヤツデ (八角金盤)、ヤドリギ (柳寄生)、ヤナギ (カワヤナギ、タチヤナギ、シダレヤナギ、アカメヤナギ、ネコヤナギ、イヌコリヤナギ、キヌヤナギ、コリヤナギ、ウンリュウヤナギ、ミヤマヤナギ、ヤシ、ヤマヤナギ、オオバヤナギ、タイリクキヌヤナギ、キツネヤナギ、ドロノキ)、ヤナギタデ「葉、茎」、ヤーバサンタ、ヤブガラシ、ヤブコウジ (紫金牛)、ヤブタバコ (鶴虱、天名精)、ヤマゴボウ (商陸)、ヤマドリタケ (ボルチーニ、セップ、シュタインピルツ)、ヤマハンノキ (山榛)、ヤマモモ (楊梅皮)、ヤマヨモギ、ユーカリ、ユキノシタ (虎耳草)、ユッカ又はフレビフォリア、ユズ「果実」、ユリ、ヨロイグサ、ヨモギ (艾葉)、ライガン (雷丸)、ライム「果実」、ライムギ、ラカンカ「果実」、ラズベリー「葉、果実」、ラタニア (クラメリア)、ラッキョウ又はエシャロット (薤白)、ラベンダー、リュウガン (竜眼肉)、リュウゼツラン (アオノリュウゼツラン、フクリンリュウゼツラン)、リョクチャ (緑茶)、リンゴ「果実、種子、葉、根」、リンドウ、ルバス又はスアビシムス (甜涼)、ルリタマアザミ (ウラジロヒゴタイ、新疆藍刺頭)、レイシ (荔枝、荔枝核)、レタス (チシャ)、レッドカーラント「果実」、レッドピタヤ、レモン「果実」、レンギョウ又はシナレンギョウ (連翹)、レンゲソウ、ロウバイ (蠟梅)、ロウヤシ、ロコン (ヨシ、蘆根)、ローガンベリー「果実」、ローズマリー (マンネンロウ)、ローズヒップ (ノバラ)、ワサビ、ワタフジウツギ (密蒙花)、ワレモコウ (地榆) 等が挙げられる。

【0039】

10

20

30

40

50

海藻類としては、海藻〔緑藻類：クロレラ・ブルガリス、クロレラ・ピレノイドサ、クロレラ・エリブソイデリア、アオノリ（ウスバアオノリ、スジアオノリ、ヒラアオノリ、ボウアオノリ、ホソエダアオノリ）、アナアオサ（アオサ）〕、海藻〔褐藻類：コンブ（マコンブ、リシリコンブ、ホソメコンブ、ミツイシコンブ）、ワカメ、ヒロメ、アオワカメ、ジャイアントケルプ（マクロシスティス・ピリフェラ、マクロシスティス・インテグリフォリア、ネオシスティス・ルエトケアーナ）、ヒジキ、ヒバマタ、ウミウチワ、ウスバウミウチワ、キレバノウミウチワ、アカバウミウチワ、コナウミウチワ、オキナウチワ、ウスユキウチワ、エツキウミウチワ〕、海藻〔紅藻類：ヒジリメン、マクサ（テングサ）、ヒラクサ、オニクサ、オバクサ、カタオバクサ、ヤタベグサ、ユイキリ、シマテングサ、トサカノリ、トゲキリンサイ、アマクサキリンサイ、キリンサイ、ビャクシンキリンサイ、ツノマタ、オオバツノマタ、トチャカ（ヤハズツノマタ）、エゾツノマタ、トゲツノマタ、ヒラコトジ、コトジツノマタ、イボツノマタ、マルバツノマタ、ヒラコトジ、スギノリ、シキンノリ、カイノリ、ヤレウスバノリ、カギウスバノリ、スジウスバノリ、ハイウスバノリ、アカモミジノリ〕等が代表的なものとして挙げられる。

【0040】

又、その他の藻類、例えば、緑藻類（クラミドモナス属：クラミドモナス、アカユキモ、ドゥナリエラ属：ドゥナリエラ、クロロコッカス属：クロロコッカス、クワノミモ属：クワノミモ、ボルボックス属：オオヒゲマワリ、ボルボックス、パルメラ属、ヨツメモ属、アオミドロ属：ヒザオリ、アオミドロ、ツルギミドロ属、ヒビミドロ属：ヒビミドロ、アオサ属：アナアオサ、アミアオサ、ナガアオサ、カワノリ属：カワノリ、フリッチエラ属、シオグサ属：オオシオグサ、アサミドリシオグサ、カワシオグサ、マリモ、パロニア属：タマゴパロニア、タマパロニア、マガタマモ属：マガタマモ、イワツタ属：フサイワツタ、スリコギツタ、ヘライワツタ、クロキツタ、ハネモ属、ミル属：ミル、クロミル、サキブチミル、ナガミル、ヒラミル、カサノリ属：カサノリ、ジュズモ属：フトジュズモ、タマジュズモ、ミゾジュズモ、ミカツキモ属、コレカエテ属、ツツミモ属、キッコウグサ属：キッコウグサ、ヒトエグサ属：ヒトエグサ、ヒロハノヒトエグサ、ウスヒトエグサ、モツキヒトエ、サヤミドロ属、クンショウモ属、スミレモ属：スミレモ、ホシミドロ属、フシナシミドロ属等）。

【0041】

藍藻類（スイゼンジノリ属：スイゼンジノリ、アオコ属、ネンジュモ属：カワタケ、イシクラゲ、ハッサイ、ユレモ属、ラセンモ（スピルリナ）属：スピルリナ、トリコデスミウム（アイアカシオ）属等）。

【0042】

褐藻類（ピラエラ属：ピラエラ、シオミドロ属：ナガミシオミドロ、イソブドウ属：イソブドウ、イソガワラ属：イソガワラ、クロガシラ属：グンセンクロガシラ、カシラザキ属：カシラザキ、ムチモ属：ムチモ、ヒラムチモ、ケベリグサ、アミジグサ属：アミジグサ、サキピロアミジ、サナダグサ属：サナダグサ、フクリンアミジ、コモングサ属：コモングサ、ヤハズグサ属：エゾヤハズ、ヤハズグサ、ウラボシヤハズ、ジガミグサ属：ジガミグサ、ウミウチワ属：ウミウチワ、コナウミウチワ、アカバウミウチワ、ナミマクラ属：ヒルナミマクラ、ソメワケグサ属：ソメワケグサ、ナバリモ属：ナバリモ、チャソウメン属：モツキチャソウメン、マツモ属：マツモ、ナガマツモ属：ナガマツモ、オキナワモズク属：オキナワモズク、ニセフトモズク属：ニセフトモズク、フトモズク属：フトモズク、イシモズク属：イシモズク、クロモ属：クロモ、ニセモズク属：ニセモズク、モズク属：モズク、イシゲ属：イシゲ、イロロ、イチメガサ属：イチメガサ、ケヤリ属：ケヤリ、ウミボッス属：ウミボッス、ウルシグサ属：ウルシグサ、ケウルシグサ、タバコグサ、コンブモドキ属：コンブモドキ、ハバモドキ属：ハバモドキ、ハバノリ属：ハバノリ、セイヨウハバノリ属：セイヨウハバノリ、コモンプクロ属：コモンプクロ、エゾブクロ属：エゾブクロ、フクロノリ属：フクロノリ、ワタモ、チシマフクロノリ属：チシマフクロノリ、カゴメノリ属：カゴメノリ、ムラリドリ属：ムラチドリ、サメズグサ属：サメズグサ、イワヒゲ属：イワヒゲ、ヨコジマノリ属：ヨコジマノリ、カヤモノリ属：カヤモノリ、ウ

イキョウモ属：ウイキョウモ、ツルモ属：ツルモ、アナメ属：アナメ、スジメ属：スジメ、ミスジコンブ属：ミスジコンブ、アツバミスジコンブ、コンブ属：ガツガラコンブ、カキジマコンブ、オニコンブ、ゴヘイコンブ、ナガコンブ、エンドウコンブ、オオチヂミコンブ、トロロコンブ属：トロロコンブ、アントクメ属：アントクメ、カジメ属：カジメ、ツルアラメ、クロメ、キクイシコンブ属：キクイシコンブ、ネジレコンブ属：ネジレコンブ、クロシオメ属：クロシオメ、ネコアシコンブ属：ネコアシコンブ、アラメ属：アラメ、アイヌワカメ属：アイヌワカメ、チガイソ、オニワカメエゾイシゲ属：エゾイシゲ、ヤバネモク属：ヤバネモク、ラッパモク属：ラッパモク、ジョロモク属：ウガノモク、ジョロモク、ヒエモク、ホンダワラ属：タマナシモク、イソモク、ナガシマモク、アカモク、シダモク、ホンダワラ、ネジモク、ナラサモ、マメタワラ、タツクリ、ヤツマタモク、ウミトラノオ、オオバモク、フシズシモク、ハハキモク、トゲモク、ヨレモク、ノコギリモク、オオバノコギリモク、スギモク属：スギモク、ウキモ属：オオウキモ、ブルウキモ属：ブルウキモ、カヤモノリ属：カヤモノリ等）。

【0043】

紅藻類（ウシケノリ属：ウシケノリ、フノリノウシケ、アマノリ属：アサクサノリ、スサビノリ、ウップルイノリ、オニアマノリ、タサ、フイリタサ、ベニタサ、ロドコルトン属：ミルノベニ、アケボノモズク属：アケボノモズク、コナハダ属：ハイコナハダ、ヨゴレコナハダ、アオコナハダ、ウミゾウメン属：ウミゾウメン、ツクモノリ、カモガシラノリ、ベニモズク属：ベニモズク、ホソベニモズク、カサマツ属：カサマツ、フサノリ属：フサノリ、ニセフサノリ属：ニセフサノリ、ソデガラミ属：ソデガラミ、ガラガラ属：ガラガラ、ヒラガラガラ、ヒロハタマイタダキ属：ヒロハタマイタダキ、タマイタダキ属：タマイタダキ、カギケノリ属：カギノリ、カギケノリ、テングサ属：ヒメテングサ、ハイテングサ、オオブサ、ナンブグサ、コヒラ、ヨヒラ、キヌクサ、ヒビロウド属：ヒビロウド、ヒメヒビロウド、イソムメモドキ属：イソムメモドキ、ミチガエソウ属：ミチガエソウ、リュウモンソウ属：リュウモンソウ、ヘラリュウモン、ニセカレキグサ属：ニセカレキグサ、オキツバラ属：オオバオキツバラ、アカバ属：アカバ、マルバアカバ、ナミノハナ属：ホソバナミノハナ、ナミノハナ、サンゴモドキ属：ガラガラモドキ、シオグサゴロモ属：シオグサゴロモ、イワノカワ属：エツキイワノカワ、カイノカワ属：カイノカワ、カニノテ属：カニノテ、サンゴモ属：サンゴモ、ムカデノリ属：ムカデノリ、スジムカデ、カタノリ、ヒラムカデ、キョウノヒモ、サクラノリ、ニクムカデ、タンバノリ、ツルツル、フダラク、マルバフダラク、イソノハナ属：ヌラクサ、クロヌラクサ、オオムカデノリ、ヒラキントキ属：ヒラキントキ、マタボウ属：マタボウ、キントキ属：チャボキントキ、キントキ、マツノリ、コメノリ、トサカマツ、ヒトツマツ、フシキントキ、ツノムカデ、ナガキントキ、スジムカデ、カクレイト属：オオバキントキ、イトフノリ属：イトフノリ、ナガオバネ属：ナガオバネ、フノリ属：ハナフノリ、フクロフノリ、マフノリ、カレキグサ属：カレキグサ、トサカモドキ属：ホソバノトサカモドキ、ヒロハノトサカモドキ、ヤツデガタトサカモドキ、クロトサカモドキ、ネザシノトサカモドキ、ユウソラ、エツキノトサカモドキ、ナンカイトサカモドキ、ヒメトサカモドキ、キヌハダ属：キヌハダ、エゾトサカ属：エゾトサカ、ツカサノリ属：エナシカリメニア、オオツカサノリ、ハナガタカリメニア、ハウノオ属：ハウノオ、ヒカゲノイト属：ヒカゲノイト、ウスギヌ、ニクハウノオ属：ニクハウノオ、ベニスナゴ属：ベニスナゴ、ススカケベニ属：ススカケベニ、オカムラグサ属：ヤマダグサ、ミリン属：ミリン、ホソバミリン、トサカノリ属：キクトサカ、エゾナメシ属：エゾナメシ、イソモッカ属：イソモッカ、ユカリ属：ユカリ、ホソユカリ、イバラノリ属：イバラノリ、サイダイバラ、タチイバラ、カギイバラノリ、キジノオ属：キジノオ、イソダンツウ属：イソダンツウ、アツバノリ属：アツバノリ、オゴノリ属：オゴノリ、ツルシラモ、シラモ、オオオゴノリ、ミゾオコノリ、カバノリ、ベニオゴノリ、フクレシノリ、ムラサキカバノリ、シンカイカバノリ、トゲカバノリ、カタオゴノリ、リュウキュウオゴノリ、セイヨウオゴノリ、イツツギヌ、ユミガタオゴノリ、クビレオゴノリ、モサオゴノリ、キヌカバノリ、テングサモドキ属：ハチジョウテングサモドキ、フシクレノリ属：フシクレノリ、ナミイワタケ属：ナミイワタケ、カイメンソウ

属：カイメンソウ、オキツノリ属：オキツノリ、サイミ属：イタニグサ、サイミ、ハリガネ、ハスジグサ属：ハスジグサ、スギノリ属：イカノアシ、ホソイボノリ、ノボノリ、クロハギンナンソウ属：クロハギンナンソウ、アカバギンナンソウ属：アカバギンナンソウ、ヒシブクロ属：ヒシブクロ、マダラグサ属：トゲマダラ、エツキマダラ、タオヤギソウ属：タオヤギソウ、ハナサクラ、フクロツナギ属：フクロツナギ、スジコノリ、ハナノエダ属：ハナノエダ、ヒラタオヤギ属：ヒラタオヤギ、ダルス属：ダルス、マサゴシバリ、アナダルス、ウエバグサ属：ウエバグサ、ベニフクロノリ属：ベニフクロノリ、フシツナギ属：フシツナギ、ヒメフシツナギ、ヒロハフシツナギ、ワツナギソウ属：ヒラワツナギソウ、ウスバワツナギソウ、イギス属：イギス、ケイギス、ハリイギス、ハネイギス、アミクサ、エゴノリ属：エゴノリ、フトイギス、サエダ属：サエダ、チリモミジ属：チリモミジ、コノハノリ科：ハブタエノリ、コノハノリ、スズシロノリ、ウスベニ属：ウスベニ、ハスジギヌ属：ハスジギヌ、ナガコノハノリ属：ナガコノハノリ、スジギヌ属：スジギヌ、アツバスジギヌ、ハイウスバノリ属：カギウスバノリ、ヤレウスバノリ、スジウスバノリ、ハイウスバノリ、ウスバノリモドキ属：ウスバノリモドキ、アヤニシキ属：アヤニシキ、アヤギヌ属：アヤギヌ、ダジア属：エナシダジア、シマダジア属：イソハギ、シマダジア、ダジモドキ属：ダジモドキ、イトグサ属：モロイトグサ、フトイグサ、マクリ属：マクリ、ヤナギノリ属：ハナヤナギ、ユナ、ヤナギノリ、モツレユナ、ベニヤナギコリ、モサヤナギ、ササバヤナギノリ、ソゾ属：クロソゾ、コブソゾ、ハネソゾ、ソゾノハナ、ハネグサ属：ハネグサ、ケハネグサ、コザネモ属：コザネモ、イソムラサキ、ホソコザネモ、ヒメゴケ属：ヒメゴケ、クロヒメゴケ、ヒオドシグ属：キクヒオドシ、ヒオドシグサ、ウスバヒオドシ、アイソメグサ属：アイソメグサ、スジナシグサ属：スジナシグサ、イソバショウ属：イソバショウ、フジマツモ属：フジマツモ、ノコギリヒバ属：ハケサキノコギリヒバ、カワモズク属：カワモズク、アオカワモズク、ヒメカワモズク、イデユコゴメ属：イデユコゴメ、オキチモズク属：オキチモズク、イトグサ属、チノリモ属：チノリモ、チスジノリ属：チスジノリ等）。

【0044】

車軸藻類（シャジクモ属、シラタマモ属、ホシツリモ属：ホシツリモ、リクノタムヌス属、フラスコモ属：ヒメフラスコモ、チャボフラスコモ、トリペラ属等）、黄色藻類（ヒカリモ属：ヒカリモ等）等。

【0045】

又、動物系原料由来の素材としては、鶏冠抽出物、牛又は豚、人の胎盤抽出物、牛又は豚の胃、十二指腸、腸、脾臓の抽出物若しくはその分解物、牛又は豚の脳組織の抽出物、牛・豚又は魚類のコラーゲン加水（酸、アルカリ、酵素等）分解物や水溶性コラーゲン又はアシル化コラーゲン等のコラーゲン誘導体、牛・豚又は魚類のエラスチン又はエラスチン加水分解物（酸、アルカリ、酵素等）又は水溶性エラスチン誘導体、ケラチン及びその分解物又はそれらの誘導体、シルク蛋白及びその分解物又はそれらの誘導体、豚又は牛血球蛋白分解物（グロビンペプチド）、牛又は豚ヘモグロビン分解物（ヘミン、ヘマチン、ヘム、プロトヘム、ヘム鉄等）、牛乳、カゼイン及びその分解物又はそれらの誘導体、脱脂粉乳及びその分解物又はそれらの誘導体、ラクトフェリン又はその分解物、鶏卵成分、魚肉分解物、核酸関連物質（リボ核酸、デオキシリボ核酸）等。

【0046】

又、植物又は動物系原料由来の素材としては、遺伝子組み替え体や細胞融合体由来の任意の部位、細胞、組織、器官、代謝物等も使用することができる。更に、任意の部位、細胞、組織、器官等を細胞培養することで得られる、例えば未分化細胞群や分化途中の細胞群等も使用することができる。

【0047】

（14）海洋成分

深層水等の海水類、例えば、海水塩、海水乾燥物、死海又は大西洋又は太平洋の海より得た無機塩（塩化ナトリウム、塩化マグネシウム、塩化カリウム等）、海泥又は泥（ファンゴ）類、例えば、イタリアファンゴ、ドイツファンゴ、アイフェルファンゴ、フライブル

グファンゴ等の各地の海泥又は泥（含有成分：二酸化珪素、二酸化チタン、酸化アルミニウム、酸化鉄、酸化マンガン、酸化ナトリウム、酸化カリウム、酸化マグネシウム、酸化カルシウム、酸化ストロンチウム、ナトリウム、カリウム、マグネシウム、カルシウム、クロム、鉄、銅、ニッケル、亜鉛、鉛、マンガン、ヒ素、水）、聖徳石、黒耀石等。

【0048】

（15）微生物培養代謝物

酵母代謝物、酵母菌抽出エキス、細菌代謝物、細菌抽出エキス、カビ又は放線菌代謝物、カビ又は放線菌抽出エキス、納豆菌代謝物、納豆抽出エキス、米発酵エキス、米糠（赤糠、白糠）発酵エキス、ユーグレナ抽出物又はその分解物又はそれら水溶性誘導体、トレハロース又はその誘導体、生乳又は脱脂粉乳の乳酸発酵物、マメ科植物の乳酸菌発酵物、ココヤシ属植物の乳酸菌発酵物等。

【0049】

（16） α -ヒドロキシ酸類

グリコール酸、クエン酸、リンゴ酸、酒石酸、乳酸等。

【0050】

（17）無機顔料

無水ケイ酸、ケイ酸マグネシウム、タルク、カオリン、ベントナイト、マイカ、雲母チタン、オキシ塩化ビスマス、酸化ジルコニウム、酸化マグネシウム、酸化亜鉛、酸化チタン、炭酸カルシウム、炭酸マグネシウム、黄酸化鉄、ベンガラ、黒酸化鉄、グンジョウ、酸化クロム、水酸化クロム、カーボンプラック、カラミン等。

【0051】

（18）紫外線吸収／遮断剤

ベンゾフェノン誘導体（2-ヒドロキシ-4-メトキシベンゾフェノン、2-ヒドロキシ-4-メトキシベンゾフェノン-5-スルホン酸、2-ヒドロキシ-4-メトキシベンゾフェノン-5-スルホン酸ナトリウム、ジヒドロキシジメトキシベンゾフェノン、ジヒドロキシジメトキシベンゾフェノン-スルホン酸ナトリウム、2,4-ジヒドロキシベンゾフェノン、テトラヒドロキシベンゾフェノン等）、パラアミノ安息香酸誘導体（パラアミノ安息香酸、パラアミノ安息香酸エチル、パラアミノ安息香酸グリセリル、パラジメチルアミノ安息香酸アミル、パラジメチルアミノ安息香酸オクチル等）、メトキシ桂皮酸誘導体（パラメトキシ桂皮酸エチル、パラメトキシ桂皮酸イソプロピル、パラメトキシ桂皮酸オクチル、パラメトキシ桂皮酸2-エトキシエチル、パラメトキシ桂皮酸ナトリウム、パラメトキシ桂皮酸カリウム、ジパラメトキシ桂皮酸モノ-2-エチルヘキサン酸グリセリル等）、サリチル酸誘導体（サリチル酸オクチル、サリチル酸フェニル、サリチル酸ホモメンチル、サリチル酸ジプロピレングリコール、サリチル酸エチレングリコール、サリチル酸ミリスチル、サリチル酸メチル等）、アントラニル酸誘導体（アントラニル酸メチル等）、ウロカニン酸誘導体（ウロカニン酸、ウロカニン酸エチル等）、クマリン誘導体、アミノ酸系化合物、ベンゾトリアゾール誘導体、テトラゾール誘導体、イミダゾリン誘導体、ピリミジン誘導体、ジオキサン誘導体、カンファー誘導体、フラン誘導体、ピロン誘導体、核酸誘導体、アラントイン誘導体、ニコチン酸誘導体、ビタミンB6誘導体、ウンベリフェロン、エスクリン、桂皮酸ベンジル、シノキサート、オキシベンゾン、ジオキシベンゾン、オクタベンゾン、スリソベンゾン、ベンゾレスルシノール、アルブチン、グアイアズレン、シコニン、バイカリン、バイカレイン、ベルベリン、ネオヘリオパン、エスカロール、酸化亜鉛、タルク、カオリン等。

【0052】

（19）美白剤

パラアミノ安息香酸誘導体、サルチル酸誘導体、アントラニル酸誘導体、クマリン誘導体、アミノ酸系化合物、ベンゾトリアゾール誘導体、テトラゾール誘導体、イミダゾリン誘導体、ピリミジン誘導体、ジオキサン誘導体、カンファー誘導体、フラン誘導体、ピロン誘導体、核酸誘導体、アラントイン誘導体、ニコチン酸誘導体、ビタミンC又はその誘導体（ビタミンCリン酸エステルマグネシウム塩、ビタミンCグルコシド等）、ビタミンE

又はその誘導体、コウジ酸又はその誘導体、オキシベンゾン、ベンゾフェノン、アルブチン、グアイアズレン、シコニン、バイカリン、バイカレイン、ベルベリン、胎盤エキス、エラグ酸、ルシノール等。

【0053】

(20) チロシナーゼ活性阻害剤

ビタミンC又はその誘導体（ビタミンCリン酸エステルマグネシウム塩、ビタミンCグルコシド等）、ハイドロキノン又はその誘導体（ハイドロキノンベンジルエーテル等）、コウジ酸又はその誘導体、ビタミンE又はその誘導体、N-アセチルチロシン又はその誘導体、グルタチオン、過酸化水素、過酸化亜鉛、胎盤エキス、エラグ酸、アルブチン、ルシノール、シルク抽出物、植物エキス（カミツレ、クワ、クチナシ、トウキ、ワレモコウ、クララ、ヨモギ、スイカズラ、キハダ、ドクダミ、マツホド、ハトムギ、オドリコソウ、ホップ、サンザシ、ユーカリ、セイヨウノコギリソウ、アルテア、ケイヒ、マンケイシ、ハマメリス、カラグワ又はヤマグワ、延命草、桔梗、トシシ、続随子、射干、麻黄、センキュウ、ドクカツ、サイコ、ボウフウ、ハマボウフウ、オウゴン、牡丹皮、シャクヤク、ゲンノショウコ、葛根、甘草、五倍子、アロエ、ショウマ、紅花、緑茶、紅茶、阿仙薬）等。

10

【0054】

(21) メラニン色素還元／分解物質

フェニル水銀ヘキサクロロフェン、酸化第二水銀、塩化第一水銀、過酸化水素水、過酸化亜鉛、ハイドロキノン又はその誘導体（ハイドロキノンベンジルエーテル）等。

20

【0055】

(22) ターンオーバーの促進作用／細胞賦活物質

ハイドロキノン、乳酸菌エキス、胎盤エキス、霊芝エキス、ビタミンA、ビタミンE、アラントイン、脾臓エキス、胸腺エキス、酵母エキス、発酵乳エキス、植物エキス（アロエ、オウゴン、スギナ、ゲンチアナ、ゴボウ、シコン、ニンジン、ハマメリス、ホップ、ヨクイニン、オドリコソウ、センブリ、トウキ、トウキンセンカ、アマチャ、オトギリソウ、キュウリ、タチジャコウソウ、マンネンロウ、パセリ）等。

【0056】

(23) 収斂剤

コハク酸、アラントイン、塩化亜鉛、硫酸亜鉛、酸化亜鉛、カラミン、パラフェノールスルホン酸亜鉛、硫酸アルミニウムカリウム、レゾルシン、塩化第二鉄、タンニン酸（カテキン化合物を含む）等。

30

【0057】

(24) 活性酸素消去剤

SOD、カタラーゼ、グルタチオンパーオキシダーゼ等。

【0058】

(25) 抗酸化剤

ビタミンC又はその塩、ステアリン酸エステル、ビタミンE又はその誘導体、ノルジヒドログアセレテン酸、ブチルヒドロキシトルエン（BHT）、ブチルヒドロキシアニソール（BHA）、ヒドロキシチロソール、パラヒドロキシアニソール、没食子酸プロピル、セサモール、セサモリン、ゴシポール、プロポリス等。

40

【0059】

(26) 過酸化脂質生成抑制剤

β-カロチン、植物エキス（ゴマ培養細胞、アマチャ、オトギリソウ、ハマメリス、チョウジ、メリッサ、エンメイソウ、シラカバ、サルビア、マンネンロウ、南天実、エイジツ、イチョウ、緑茶）等。

【0060】

(27) 抗炎症剤

イクタモール、インドメタシン、カオリン、サリチル酸、サリチル酸ナトリウム、サリチル酸メチル、アセチルサリチル酸、塩酸ジフェンヒドラミン、d-カンフル、dl-カン

50

フル、ヒドロコルチゾン、グアイアズレン、カマズレン、マレイン酸クロルフェニラミン、グリチルリチン酸又はその塩、グリチルレチン酸又はその塩、甘草エキス、シコンエキス、エイジツエキス、プロポリス等。

【0061】

(28) 抗菌・殺菌・消毒薬

アクリノール、イオウ、グルコン酸カルシウム、グルコン酸クロルヘキシジン、スルファミン、マーキュロクロム、ラクtofフェリン又はその加水分解物、塩化アルキルジアミノエチルグリシン液、トリクロサン、次亜塩素酸ナトリウム、クロラミンT、サラシ粉、ヨウ素化合物、ヨードホルム、ソルビン酸又はその塩、プロピオン酸又はその塩、サルチル酸、デヒドロ酢酸、パラヒドロキシ安息香酸エステル類、ウンデシレン酸、チアミンラウリル硫酸塩、チアミンラウリル硝酸塩、フェノール、クレゾール、p-クロロフェノール、p-クロロ-m-キシレノール、p-クロロ-m-クレゾール、チモール、フェネチルアルコール、O-フェニルフェノール、イルガサンCH3565、ハロカルパン、ヘキサクロロフェン、クロロヘキシジン、エタノール、メタノール、イソプロピルアルコール、ベンジルアルコール、エチレングリコール、プロピレングリコール、2-フェノキシエタノール、1,2-ペンタンジオール、ジンクピリジオン、クロロブタノール、イソプロピルメチルフェノール、非イオン界面活性剤（ポリオキシエチレンラウリルエーテル、ポリオキシエチレンノニルフェニルエーテル、ポリオキシエチレンオクチルフェニルエーテル等）、両性界面活性剤、アニオン界面活性剤（ラウリル硫酸ナトリウム、ラウロイルサルコシンカリウム等）、カチオン界面活性剤（臭化セチルトリメチルアンモニウム、塩化ベンザルコニウム、塩化ベンゼトニウム、塩化メチルロザニリン）、ホルムアルデヒド、ヘキサミン、ブリリアントグリーン、マラカイトグリーン、クリスタルバイオレット、ジャーマル、感光素101号、感光素201号、感光素401号、N-長鎖アシル塩基性アミノ酸誘導体及びその酸附加塩、酸化亜鉛、ヒノキチオール、クジン、プロポリス等。

10

20

【0062】

(29) 保湿剤

グリセリン、プロピレングリコール、1,3-ブチレングリコール、ポリエチレングリコール、トリカプリルカプリン酸グリセリン、グリコール酸（ α -ヒドロキシ酸）、ヒアルロン酸又はその塩、コンドロイチン硫酸又はその塩、水溶性キチン又はその誘導体或いはキトサン誘導体、ピロリドンカルボン酸又はその塩、乳酸ナトリウム、尿素、ソルビトール、アミノ酸又はその誘導体（バリン、ロイシン、イソロイシン、トレオニン、メチオニン、フェニルアラニン、トリプトファン、リジン、グリシン、アラニン、アスパラギン、グルタミン、セリン、システイン、シスチン、チロシン、プロリン、ヒドロキシプロリン、アスパラギン酸、グルタミン酸、ヒドロキシリジン、アルギニン、オルニチン、ヒスチジンや、それらの硫酸塩、リン酸塩、硝酸塩、クエン酸塩、或いはピロリドンカルボン酸）、油脂類「アボガド油、アーモンド油、ウイキョウ油、エゴマ油、オリーブ油、オレンジ油、オレンジラファエ油、ゴマ油、カカオ脂、カミツレ油、カロット油、キューカンバー油、牛脂脂肪酸、クインスシード油、ククイナッツ油、サフラワー油、シア脂、液状シア脂、大豆油、ツバキ油、トウモロコシ油、ナタネ油、ホホバ油、パーシク油、ヒマシ油、ヒマワリ油、綿実油、落花生油、タートル油、ティートリー油、ミンク油、卵黄油、パーム油、パーム核油、モクロー、ヤシ油、ユーカリ油、牛脂、豚脂、スクワレン、スクワラン、プリスタン又はこれら油脂類の水素添加物（硬化油）」、ロウ類（ミツロウ、カルナバロウ、鯨ロウ、ラノリン、液状ラノリン、還元ラノリン、硬質ラノリン、カンデリラロウ、モンタンロウ、セラックロウ、ライスワックス）、鉱物油（流動パラフィン、ワセリン、パラフィン、オゾケライド、セレシン、マイクロクリスタンワックス）、納豆菌代謝物、納豆抽出エキス、絹繊維抽出物、植物エキス（赤松樹液、アロエ、葛根、カミツレ、甘草、キュウリ、甘草、米又は米糠、紫根、白樺又は白樺樹液、センブリ、桑白皮、琵琶葉、ヘチマ、牡丹皮、蓬）等。

30

40

【0063】

(30) エラスターゼ活性阻害剤

50

フロオロリン酸ジイソプロピル、植物エキス（オウゴン、オトギリソウ、クララ、桑の葉、ケイヒ、ゲンノショウコ、コンフリー、サルビア、セイヨウニワトコ、ボダイジュ、ボタンピ）、海藻エキス等。

【0064】

（31）頭髮用剤

二硫化セレン、臭化アルキルイソキノリニウム液、ジंकピリチオン、ビフェナミン、チアントール、カスターチンキ、ショウキョウチンキ、トウガラシチンキ、塩酸キニーネ、強アンモニア水、臭素酸カリウム、臭素酸ナトリウム、チオグリコール酸等。

【0065】

（32）抗アンドロゲン剤

卵胞ホルモン（エストロン、エストラジオール、エチニルエストラジオール等）、イソフラボン、オキシンドロン等。

【0066】

（33）末梢血管血流促進剤

ビタミンE又はその誘導体、センブリエキス、ニンニクエキス、人参エキス、アロエエキス、ゲンチアナエキス、トウキエキス、セファランチン、塩化カルプロニウム、ミノキシジル等。

【0067】

（34）刺激剤

トウガラシチンキ、ノニル酸バニルアミド、カンタリスチンキ、ショウキョウチンキ、ハッカ油、1-メントール、カンフル、ニコチン酸ベンジル等。

【0068】

（35）代謝活性剤

感光素301号、ヒノキチオール、パントテン酸又はその誘導体、アラントイン、胎盤エキス、ビオチン、ペンタデカン酸グリセリド等。

【0069】

（36）抗脂漏剤

ピリドキシン又はその誘導体、イオウ、ビタミンB6等。

【0070】

（37）角質溶解剤

レゾルシン、サリチル酸、乳酸、尿素等。

【0071】

（38）酸化剤

過酸化水素水、過硫酸ナトリウム、過硫酸アンモニウム、過ホウ酸ナトリウム、過酸化尿素、過炭酸ナトリウム、過酸化トリポリリン酸ナトリウム、臭素酸ナトリウム、臭素酸カリウム、過酸化ピロリン酸ナトリウム、過酸化オルソリン酸ナトリウム、ケイ酸ナトリウム過酸化水素付加体、硫酸ナトリウム過酸化水素付加体、塩化ナトリウム過酸化水素付加体、β-チロシナーゼ酵素液、マッシュルーム抽出液等。

【0072】

（39）除毛剤

硫酸ストロンチウム、硫化ナトリウム、硫化バリウム、硫化カルシウム等の無機系還元剤、チオグリコール酸又はその塩類（チオグリコール酸カルシウム、チオグリコール酸ナトリウム、チオグリコール酸リチウム、チオグリコール酸マグネシウム、チオグリコール酸ストロンチウム）等。

【0073】

（40）毛髪膨潤剤

エタノールアミン、尿素、グアニジン等。

【0074】

（41）染料剤

5-アミノオルトクレゾール、2-アミノ-4-ニトロフェノール、2-アミノ-5-ニ

10

20

30

40

50

トロフェノール、1-アミノ-4-メチルアミノアントラキノン、3, 3'-イミノジフェノール、塩酸2, 4-ジアミノフェノキシエタノール、塩酸2, 4-ジアミノフェノール、塩酸トルエン-2, 5-ジアミン、塩酸ニトロパラフェニレンジアミン、塩酸パラフェニレンジアミン、塩酸N-フェニルパラフェニレンジアミン、塩酸メタフェニレンジアミン、オルトアミノフェノール、酢酸N-フェニルパラフェニレンジアミン、1, 4-ジアミノアントラキノン、2, 6-ジアミノピリジン、1, 5-ジヒドロキシナフタレン、トルエン-2, 5-ジアミン、トルエン-3, 4-ジアミン、ニトロパラフェニレンジアミン、パラアミノフェノール、パラニトロオルトフェニレンジアミン、パラフェニレンジアミン、パラメチルアミノフェノール、ピクラミン酸、ピクラミン酸ナトリウム、N, N'-ビス(4-アミノフェニル)-2, 5-ジアミノ-1, 4-キノンジイミン、5-(2-ヒドロキシエチルアミノ)-2-メチルフェノール、N-フェニルパラフェニレンジアミン、メタアミノフェノール、メタフェニレンジアミン、硫酸5-アミノオルトクレゾール、硫酸2-アミノ-5-ニトロフェノール、硫酸オルトアミノフェノール、硫酸オルトクロルパラフェニレンジアミン、硫酸4, 4'-ジアミノジフェニルアミン、硫酸2, 4-ジアミノフェノール、硫酸トルエン-2, 5-ジアミン、硫酸ニトロパラフェニレンジアミン、硫酸パラアミノフェノール、硫酸パラニトロオルトフェニレンジアミン、硫酸パラニトロメタフェニレンジアミン、硫酸パラフェニレンジアミン、硫酸パラメチルアミノフェノール、硫酸メタアミノフェノール、硫酸メタフェニレンジアミン、カテコール、ジフェニルアミン、 α -ナフトール、ヒドロキノン、ピロガロール、フロログルシン、没食子酸、レゾルシン、タンニン酸、2-ヒドロキシ-5-ニトロ-2', 4'-ジアミノアゾベンゼン-5'-スルホン酸ナトリウム、ヘマテイン等。

10

20

30

40

50

【0075】

(42) 香料

ジャコウ、シベット、カストリウム、アンバーgris等の天然動物性香料、アニス精油、アンゲリカ精油、イランイラン精油、イリス精油、ウイキョウ精油、オレンジ精油、カンガ精油、カラウェー精油、カルダモン精油、グアヤクウッド精油、クミン精油、黒文字精油、ケイ皮精油、シンナモン精油、ゲラニウム精油、コパイババルサム精油、コリアンデル精油、シソ精油、シダーウッド精油、シトロネラ精油、ジャスミン精油、ジンジャーグラス精油、杉精油、スペアミント精油、西洋ハッカ精油、大茴香精油、チュベローズ精油、丁字精油、橙花精油、冬緑精油、トルーバルサム精油、バチュリー精油、バラ精油、パルマローザ精油、桧精油、ヒバ精油、白檀精油、プチグレン精油、ベイ精油、ベチバ精油、ベルガモット精油、ペルーバルサム精油、ボアドローズ精油、芳樟精油、マンダリン精油、ユーカリ精油、ライム精油、ラベンダー精油、リナロエ精油、レモン精油、ローズマリー(マンネンロウ)精油、和種ハッカ精油等の植物性香料、その他合成香料等。

【0076】

(43) 色素・着色剤

赤キャベツ色素、赤米色素、アカネ色素、アナトー色素、イカスミ色素、ウコン色素、エンジュ色素、オキアミ色素、柿色素、カラメル、金、銀、クチナシ色素、コーン色素、タマネギ色素、タマリンド色素、スピルリナ色素、ソバ全草色素、チェリー色素、海苔色素、ハイビスカス色素、ブドウ果汁色素、マリーゴールド色素、紫イモ色素、紫ヤマイモ色素、ラック色素、ルチン等。

【0077】

(44) 甘味料

砂糖、甘茶、果糖、アラビノース、ガラクトース、キシロース、ステビア、マンノース、麦芽糖、蜂蜜、ブドウ糖、ミラクリン、モネリン、甘草抽出物等。

【0078】

(45) 栄養強化剤

貝殻焼成カルシウム、シアノコラバミン、酵母、小麦胚芽、卵黄粉末、ヘミセルロース、ヘム鉄等。

【0079】

(46) 乳製品

牛乳、チーズ、生クリーム、バター、マーガリン、粉乳、ホエー、練乳等。

【0080】

(44) その他

ホルモン類、金属イオン封鎖剤、pH調整剤、キレート剤、防腐・防バイ剤、清涼剤、安定化剤、乳化剤、動・植物性蛋白質及びその分解物、動・植物性多糖類及びその分解物、動・植物性糖蛋白質及びその分解物、血流促進剤、抗炎症剤・消炎剤・抗アレルギー剤、創傷治療剤、増泡剤、増粘剤、酵素、精製水（電子水、小クラスター化等）、口腔用剤、消臭・脱臭剤、苦味料、調味料等が挙げられ、これらと併用することによって、本発明効果又は他の美容的効果の相加的又は相乗的向上が期待できる。

10

【0081】

尚、本発明のリパーゼ活性促進剤、活性酸素消去剤、化粧品組成物又は飲食品への添加の方法については、予め加えておいても、製造途中で添加しても良く、作業性を考えて適宜選択すれば良い。

【0082】

【実施例】

以下に、製造例、試験例、処方例を上げて説明するが、本発明がこれらに制約されるものではない。

【0083】

(製造例1)

レモングラスの乾燥物100gを精製水（約80℃）にて約5時間加温抽出し、濾過して抽出液（乾燥固形分：約0.1～2.0質量%）を約1.0kg得る。

20

【0084】

(製造例2)

レモングラスの乾燥物100gを50%1, 3-ブチレングリコール溶液に浸漬し、室温にて5昼夜抽出した後、濾過して抽出液（乾燥固形分：約0.1～2.0質量%）を約1.0kg得る。

【0085】

(製造例3)

レモングラスの乾燥物100gを50%エタノール溶液に浸漬し、室温にて5昼夜抽出した後、濾過して抽出液（乾燥固形分：約0.1～2.0質量%）を約1.0kg得る。

30

【0086】

(製造例4)

レモングラスの乾燥物100gを70%エタノール溶液又は70%1, 3-ブチレングリコール溶液、又は60%プロピレングリコール溶液、又は精製水（約30℃）に浸漬し、室温にて5昼夜抽出した後、濾過して抽出液（乾燥固形分：約0.1～2.5質量%）を約1.0kg得る。

【0087】

(試験1) リパーゼ活性促進試験

ヒト血中リパーゼの定量反応を指標としたリパーゼ活性値をもとにリパーゼ活性促進作用を評価した。

40

【0088】

「試験方法及び評価方法」

a. 試料

尚、リパーゼ活性促進試験の試料は、本発明の製造例2で得られた抽出液（固形分濃度：0.5%に調整）を用い、試験に供した。

b. 酵素リパーゼ

酵素リパーゼ（豚膵臓由来／シグマ社製）は、0.2unitsになるよう調整した。

c. リパーゼ活性の測定

試料40%、0.2unitsリパーゼ50%、精製水10%の混合液を検体とし、リパ

50

ーゼキット S（大日本製薬株式会社製）の試験法に従い試験を行った。尚、対照として、試料の代わりに、試料の抽出溶媒濃度を用い、各試料、対照について反応停止後に基質を添加する盲検との呈色の差により、対照を 100%と設定し、次式（数 1）によりリパーゼ活性促進率（＝リパーゼ活性促進作用）を求め、結果は図 1 に示した。

【0089】

〈数 1〉

リパーゼ活性促進率（%）＝（試料の検体吸光度－試料の盲検吸光度）／（対照の検体吸光度－対照の盲検吸光度）× 100

【0090】

（試験結果）

図 1 の通り、本発明のレモングラス抽出物はリパーゼの活性促進作用を有することが確認でき、リパーゼ活性促進剤として使用できる。

【0091】

（試験 2）活性酸素消去（SOD 様活性）試験

近年、活性酸素によって誘発される疾患・疾病も数多く報告され、活性酸素を除去・消去（SOD 活性）は、組織障害の予防につながるものと指摘されている。本試験では、製造例 2 で得られた抽出液について、キサンチン－キサンチンオキシダーゼ系により発生させた活性酸素に対する消去能を今成らの NBT 法（過酸化脂質実験法，P. 144，医歯薬出版（株））を用いて検討した。

【0092】

「試験方法及び評価方法」

小試験管に 0.05 M 炭酸ナトリウム緩衝液（pH 10.2）に、キサンチンとエチレンジアミン 4 酢酸をそれぞれ 3.0 mM となるように溶解した基質液 2.6 mL に、0.75 mM ニトロブルーテトラゾリウム（NBT）、0.15 W/V% 牛血清アルブミン、更に試料溶液（対照にはその溶媒）を 0.1 mL 加え、25℃で 10 分間放置する。そこにあらかじめ吸光度変化が約 0.3 / 20 分となるように調整したキサンチンオキシダーゼ水溶液 0.1 mL を添加し、25℃で 20 分放置した後、6.0 mM CuCl 溶液 0.1 mL を添加することにより反応を停止させ、560 nm における吸光度を測定した。尚、試料の代わりに試料溶液の溶媒を添加したものを対照とし、更には試料及び対照についてキサンチンオキシダーゼを入れる前に反応停止液を入れた群をブランクとして数 2 より活性酸素消去率（＝活性酸素消去作用）を求め、結果を図 2 に示した。

「試料」

尚、活性酸素消去（SOD 様活性）試験の試料は、本発明の製造例 2 で得られた抽出液（固形分濃度：0.5%に調整）を用い、試験に供した。

【0093】

〈数 2〉

活性酸素消去率（%）＝{1－（試料 O.D. 値－ブランク（試料）O.D. 値）／（対照 O.D. 値－ブランク（対照）O.D. 値）} × 100

【0094】

（試験結果）

図 2 の通り、本発明のレモングラス抽出物は、活性酸素の生成を有意に抑え、活性酸素消去作用を有することが確認でき、活性酸素消去剤として使用できる。

【0095】

（試験 3）安全性試験

（1）皮膚一次刺激性試験

製造例 1～4 で得られたレモングラス抽出物を固形分濃度が約 0.8%になるように調製し、これを背部を剪毛したハートレー系モルモット（雌性，1 群 3 匹，体重 300～350 g）の皮膚の 2×2 cm² の四角当たり 0.03 ml ずつ塗布した。判定は、適用後 24，48，72 時間に一次刺激性の評点法により紅斑及び浮腫を指標として行った。その結果、全ての動物において、何等、紅斑及び浮腫を認めず陰性と判定された。

【0096】

(試験4) 安全性試験

(2) 皮膚累積刺激性試験

製造例1～4で得られたレモンガラス抽出物を固形分濃度が約0.8%となるように調整し、これを側腹部を剪毛(2×4cm²)したハートレー系モルモット(雌性, 1群3匹, 体重320g前後)の皮膚に1日1回、週5回、0.5ml/動物当りを塗布した。塗布は2週にわたって、又、剪毛は各週の最終塗布日に行った。判定は、各塗布日及び最終塗布日の翌日に一次刺激性の評点法により紅斑及び浮腫を指標として行った。その結果、全ての動物において、塗布後2週間にわたって、何等、紅斑及び浮腫を認めず陰性と判断された。

10

【0097】

(試験5) 安全性試験

(3) 単回投与毒性試験

製造例1～4で得られたレモンガラス抽出物を12.5%濃度になるよう精製水にて調整し、一匹につき16ml/kg量を、試験前、16時間絶食させたddy系マウス(雄性及び雌性、1群5匹、5週齢)に経口にてゾンデを以て投与し、毒性症状の発現、程度等を経時的に観察した。その結果、全てのマウスにおいて14日間、何等異常を認めず、解剖の結果も異常がなかった。よって、LD₅₀は2,000mg/kg以上であり、安全な物質と判断した。

【0098】

(処方例) リパーゼ活性促進剤、活性酸素消去剤、化粧品組成物又は飲食品の製造

上記の評価結果に従い、以下にその処方例を示すが、各処方例は各製品の製造における常法により製造したもので良く、配合量のみを示した。又、本発明はこれらに限定されるわけではない。

20

【0099】

(処方例1) 乳液

	質量%
1. スクワラン	5.0
2. オリーブ油	5.0
3. ホホバ油	5.0
4. セチルアルコール	1.5
5. グリセリンモノステアレート	2.0
6. ポリオキシエチレン(20)セチルエーテル	3.0
7. ポリオキシエチレン(20)ソオルピタンモノオレート	2.0
8. 1,3-ブチレングリコール	1.0
9. グリセリン	2.0
10. 製造例2のレモンガラス抽出液	5.0
11. 防腐剤(パラオキシ安息香酸エステル)	適量
12. 香料	適量
13. 精製水	100とする残余

30

40

【0100】

(処方例2) 乳液

質量%

1. スクワラン	8.0	
2. ホホバ油	7.0	
3. パラアミノ安息香酸グリセリル	1.0	
4. ウロカニン酸エチル	1.0	
5. ビタミンCリン酸エステルマグネシウム塩	1.0	
6. セチルアルコール	1.5	10
7. グリセリンモノステアレート	2.0	
8. ポリオキシエチレン(20)セチルエーテル	3.0	
9. ポリオキシエチレン(20)ソオルピタンモノオレート	2.0	
10. 1,3-ブチレングリコール	1.0	
11. グリセリン	2.0	
12. 1,2-ペンタンジオール	3.0	
13. レモングラス葉又は茎70%エタノール抽出液	3.0	20
14. セイヨウアカマツ球果70%エタノール抽出液	1.0	
15. 柚子果実50%ジプロピレングリコール抽出液	1.0	
16. 絹蛋白質酵素分解液	5.0	
17. 豚プラセンタ水抽出液	1.0	
18. 防腐剤 (パラオキシ安息香酸エステル)	適量	
19. 精製水	100とする残余	

【0101】

30

(処方例3) 化粧用オイル

	質量%	
1. 流動パラフィン	30.0	
2. スクワラン	20.0	
3. オリーブ油	20.0	
4. パルミチン酸イソプロピル	10.0	
5. レモングラス樹皮熱水抽出液	3.0	
6. 丁字蕾熱水抽出液	1.0	10
7. グレープフルーツ果実又は葉熱水抽出液	3.0	
8. 杜仲葉熱水抽出液	3.0	
9. 大豆種子熱水抽出液	1.0	
10. オリーブ油	1.0	
11. シア脂	1.0	
12. ブチルヒドロキシアニソール	0.1	
13. ビタミンE誘導体	0.1	20
14. 防腐剤 (塩化ベンザルコニウム)	適量	
15. 香料 (バラ水)	適量	
16. 精製水	100とする残余	

【0102】

(処方例4) 柔軟性化粧水

質量%

1. グリセリン	5.0	
2. 1,3-ブチレングリコール	5.0	
3. モノオアリール酸ポリアルキルアクリル酸エステル (20E.0)	1.0	
4. エタノール	15.0	
5. レモングラス葉又は茎30%エタノール抽出液	3.0	
6. 菩提樹花又は果実50%1,3-ブチレングリコール抽出液	1.0	10
7. ユズ果実30%エタノール抽出液	1.0	
8. カミツレ全草60%1,2-ペンタンジオール抽出液	1.0	
9. 葡萄茎又は葉30%エタノール抽出液	1.0	
10. 山椒果皮又は果実30%1,2-ペンタンジオール抽出液	1.0	
11. キウイ果実50%エタノール抽出液	1.0	
12. 白樺樹液	1.0	
13. 抗菌 (ラクトフェリン溶液)	適量	20
14. 防腐剤 (パラオキシ安息香酸エステル)	適量	
15. 香料 (西洋薄荷水)	適量	
16. 精製水	100とする残余	

【0103】

(処方例5) 収れん化粧水

質量%

1. ソルビット	2.0	
2. POE (20) オレイルアルコール	1.0	30
3. エタノール	15.0	
4. 1,2-ペンタンジオール	3.0	
5. レモングラス全草50%1,3-ブチレングリコール抽出液	3.0	
6. サボンソウ葉50%1,3-ブチレングリコール抽出液	2.0	
7. ゲンチアナ全草50%エタノール抽出液	2.0	
8. ハマメリス葉又は樹皮50%1,3-ブチレングリコール抽出液	1.0	
9. 緑茶葉又は茎50%1,3-ブチレングリコール抽出液	1.0	40
10. 酵母50%1,3-ブチレングリコール抽出液	1.0	
11. アラントイン	0.2	
12. 収れん剤 (スルホ石炭酸亜鉛)	0.2	
13. 抗菌・防腐剤 (チアミンラウリル硫酸塩)	適量	
14. 香料 (ラベンダー水)	適量	
15. 精製水	100とする残余	

【0104】

(処方例6) 2層式化粧水(液～液型)

質量%

1. スクワラン	8.0	
2. POEソルビタリテオレイン酸エステル	0.3	
3. ソルビット	1.0	
4. エタノール	15.0	
5. レモングラス果実50%プロピレングリコール抽出液	2.0	
6. アカヤジオウ根茎又は根皮50%プロピレングリコール抽出液	2.0	10
7. 緑茶葉又は茎50%1,3-ブチレングリコール抽出液	2.0	
8. センブリ全草50%1,3-ブチレングリコール抽出液	2.0	
9. セージ全草50%エタノール抽出液	1.0	
10. 西洋薔薇樹花又は果実30%エタノール抽出液	1.0	
11. セイヨウトチノキ種子又は葉30%エタノール抽出液	1.0	
12. アスコルビン酸	0.2	20
13. 収れん剤(カラミン)	0.1	
14. 防腐剤(フェノキシエタノール)	適量	
15. 香料(リンゴ水)	適量	
16. 精製水	100とする残余	

【0105】

(処方例7) カーマインローション (液～固型)	質量%
1. グリセリン	3.0
2. 1,3-ブチレングリコール	5.0
3. エタノール	15.0
4. 酸化鉄 (ベンガラ)	0.2
5. 酸化亜鉛	0.5
6. カオリン	2.0
7. レモンガラス葉又は茎50%プロピレングリコール抽出液	2.0
8. シモツケソウ花50%プロピレングリコール抽出液	2.0
9. 芍薬根50%プロピレングリコール抽出液	2.0
10. ウスベニアオイ花又は葉50%プロピレングリコール抽出液	2.0
11. カミツレ花50%プロピレングリコール抽出液	2.0
12. コンフリー葉及び茎50%エタノール抽出液	1.0
13. 豚プラセンタ酵素分解液	1.0
14. 絹蛋白質アルカリ分解液	2.0
15. カンファー	0.2
16. フェノール	0.03
17. 防腐剤 (感光素201&401号)	適量
18. 香料 (菩提樹水)	適量
19. 精製水	100とする残余

10

20

30

(処方例8) パック	質量%	
1. ポリビニルアルコール	15.0	
2. カルボキシメチルセルロースナトリウム	5.0	
3. プロピレングリコール	3.0	
4. エタノール	10.0	
5. レモングラス枝葉又は根茎50%グリセリン抽出液	1.0	
6. キイチゴ果実50%ジグリセリン抽出液	1.0	10
7. 丁字蕾50%ジグリセリン抽出液	1.0	
8. 温州蜜柑果皮50%1,3-ブチレングリコール抽出液	1.0	
9. 緑茶葉熱水抽出液	1.0	
10. 桃葉熱水抽出液	2.0	
11. 豚プラセンタ熱水抽出エキス	1.0	
12. 防腐剤 (パラオキシ安息香酸エステル)	適量	
13. 香料 (バラ水)	適量	20
14. 精製水	100とする残余	

【0107】

(処方例9) ビールオフパック	質量%	
1. グリセリン	5.0	
2. プロピレングリコール	4.0	
3. ポリビニルアルコール	15.0	
4. エタノール	8.0	30
5. ポリオキシエチレングリコール	1.0	
6. パントテニルエチルエーテル	1.0	
7. レモングラス花又は花穂50%グリセリン抽出液	2.0	
8. 紅花全草50%エタノール抽出液	2.0	
9. オランダゼリ (パセリ) 葉又は茎50%エタノール抽出液	2.0	
10. ユーカリ葉又は茎30%エタノール抽出液	2.0	
11. 山椒果皮又は果実30%1,2-ペンタンジオール抽出液	1.0	40
12. セイヨウトチノキ樹皮又は葉30%エタノール抽出液	1.0	
13. ローヤルゼリー50%エタノール抽出液	1.0	
14. トレハロース溶解液	1.0	
15. 防腐剤 (パラオキシ安息香酸エステル)	適量	
16. 香料 (カミツレ水)	適量	
17. 精製水	100とする残余	

【0108】

(処方例10) コールドクリーム

	質量%	
1. サラシミツロウ	11.0	
2. 流動パラフィン	22.0	
3. ラノリン	10.0	
4. オリーブ油	5.0	
5. カミツレ油	5.0	
6. パーム油	5.0	10
7. ホウ砂	0.5	
8. レモングラス葉又は茎抽出液	2.0	
(エタノール:1,3-ブチレングリコール=1:1抽出溶媒)		
9. セイヨウノコギリソウ全草抽出液	2.0	
(エタノール:1,3-ブチレングリコール=1:1抽出溶媒)		
10. 白樺樹皮抽出液	2.0	20
(エタノール:1,3-ブチレングリコール=1:1抽出溶媒)		
11. オタネニンジン根50%プロピレングリコール抽出液	2.0	
12. マツホド菌核50%1,2-ブチレングリコール抽出液	1.0	
13. 大豆種子水抽出液	1.0	
14. 液状シア脂	1.0	
15. グリチルリチン酸ジカリウム	0.1	
16. 防腐剤 (アクリノール)	0.1	30
17. 香料 (ラベンダー水)	適量	
18. 精製水	100とする残余	

【0109】

(処方例11) エモリエントクリーム

質量%

1. ステアリン酸	2.0	
2. ステアリルアルコール	7.0	
3. 還元ラノリン	2.0	
4. スクワラン	5.0	
5. オクチルドデカノール	6.0	
6. ポリオキシエチレンセチルエーテル (25E.0.)	3.0	10
7. 親油性モノステアリン酸グリセリン	2.0	
8. プロピレングリコール	2.0	
9. 1,2-ペンタンジオール	2.0	
10. レモングラス種子熱水抽出液	3.0	
11. ドクダミ葉熱水抽出液	3.0	
12. 紫蘇葉50%プロピレングリコール抽出液	2.0	
13. ムラサキ(紫根)根50%プロピレングリコール抽出液	2.0	20
14. キイチゴ果実50%ジグリセリン抽出液	1.0	
15. 大豆種子納豆菌発酵液	1.0	
16. グリチルレチン酸	0.1	
17. 豚プラセンター酵素分解溶液	1.0	
18. 防腐剤(パラベン)	適量	
19. 香料(丁子水)	適量	
20. 精製水	100とする残余	30

【0110】

(処方例12) 洗顔クリーム

	質量%	
1. ミリスチン酸	25.0	
2. ステアリン酸	5.0	
3. 牛脂脂肪酸	5.0	
4. プロピレングリコール	10.0	
5. 水酸化カリウム	6.0	
6. ヤシ油脂肪酸ジエタノールアミド	6.0	10
7. レモングラス根茎50%グリセリン抽出液	1.0	
8. 林檎果実20%1,3-ブチレングリコール抽出液	2.0	
9. カワラヨモギ葉20%1,3-ブチレングリコール抽出液	2.0	
10. ローズヒップ果実30%エタノール抽出液	1.0	
11. 葛根熱水抽出液	2.0	
12. グリチルリチン酸	1.0	
13. 杏子核粒	0.1	20
14. 防腐剤 (サルチル酸)	0.1	
15. 香料 (当帰水)	適量	
16. 精製水	100とする残余	

【0111】

(処方例13) 洗顔クリーム

	質量%	
1. ステアリン酸	10.0	
2. パルミチン酸	10.0	
3. ミリスチン酸	12.0	
4. ラウリン酸	4.0	
5. グリセリン	18.0	
6. d 1-ピロリドンカルボン酸ナトリウム液	1.0	10
7. アジピン酸ジオクチル	1.0	
8. セトステアリルアルコール	3.0	
9. トリエタノールアミン	3.0	
10. エルゴカルシフェロール	1.0	
11. オレイルアルコール	1.5	
12. ラノリン誘導体 (E. O. 付加物)	1.0	
13. 水酸化カリウム	6.0	20
14. 製造例2のレモングラス抽出液	5.0	
15. ローヤルゼリー抽出液	1.0	
(エタノール:1,3-ブチレングリコール=1:1)		
16. 油溶性カミツレ花又は葉抽出液	2.0	
(エタノール:1,3-ブチレングリコール=1:1)		
17. 油溶性甘草根又は根茎抽出液	2.0	
(エタノール:1,3-ブチレングリコール=1:1)		
18. ローヤルゼリー抽出液	1.0	
(エタノール:1,3-ブチレングリコール=1:1)		
19. エデト酸塩	2.0	
20. グリチルリレチン酸	1.0	
21. 防腐剤 (サルチル酸)	0.1	
22. 香料 (ヨモギ水)	適量	
23. 精製水	100とする残余	40

【0112】

(処方例14) ボディーソープ

質量%

1. ラウリン酸カリウム	15.0	
2. ミリスチン酸カリウム	5.0	
3. プロピレングリコール	5.0	
4. レモンガラス葉又は茎70%1,3-ブチレングリコール抽出液	1.0	
5. 烏龍茶葉70%1,3-ブチレングリコール抽出液	1.0	
6. 当帰根茎70%2,3-ブチレングリコール抽出液	1.0	10
7. ワカメ70%1,3-ブチレングリコール抽出液	1.0	
8. メリロート花又は葉70%1,3-ブチレングリコール抽出液	1.0	
9. アマチャ葉又は茎70%1,3-ブチレングリコール抽出液	1.0	
10. セイヨウトチノキ樹皮又は葉30%エタノール抽出液	1.0	
11. 大豆種子納豆菌発酵液	1.0	
12. アロエ果肉70%エタノール抽出液	2.0	
13. ポリエチレン末	0.5	20
14. ヒドロキシプロピルキトサン溶液	0.5	
15. アミノ酸 (アルギニン、グリシン、グルタミン等)	0.5	
16. グリチルリチン酸モノアンモニウム	0.1	
17. 防腐剤 (ウンデシレン酸、フェノール)	適量	
18. pH調整剤	適量	
19. 香料 (ラベンダー水)	適量	
20. 精製水	100とする残余	30

【0113】

(処方例15) サンスクリーン化粧品 (O/W型)		質量%	
1. オキシベンゾン		2.0	
2. パラメトキシケイ皮酸オクチル		5.0	
3. ジヒドロキシメトキシベンゾフェノン		0.2	
4. スクワラン		10.0	
5. ワセリン		5.0	
6. ステアリルアルコール		3.0	10
7. ステアリン酸		3.0	
8. グリセリルモノステアレート		2.0	
9. ポリアクリル酸エチル		1.0	
10. 1,3-ブチレングリコール		6.0	
11. エデト酸二ナトリウム		0.1	
12. トリエタノールアミン		1.0	
13. 二酸化チタン		5.0	20
14. レモンガラス果実又は果皮50%ジプロピレングリコール抽出液	0.5		
15. 白樺樹皮70%ジプロピレングリコール抽出液	1.5		
16. ヤグルマギク葉50%プロピレングリコール抽出液	0.5		
17. 葛根50%プロピレングリコール抽出液	0.5		
18. 柚子果実50%ジプロピレングリコール抽出液	0.5		
19. 防腐剤 (パラオキシ安息香酸ベンジル)	適量		
20. 香料 (ジャスミン水)	適量		30
21. 精製水	100とする残余		

【0114】

(処方例16) サンスクリーン化粧品 (オイルタイプ)	質量%	
1. 流動パラフィン	70.0	
2. テトラヒドロキシベンゾフェノン	1.0	
3. セチルオクタノエート	23.8	
4. レモンガラス葉又は茎30%1,3-ブチレングリコール抽出液	1.0	
5. ローマカミツレ花10%1,3-ブチレングリコール抽出液	1.0	
6. ゴボウ根熱水抽出液	0.5	10
7. セイヨウトチノキ全草30%1,3-ブチレングリコール抽出液	0.5	
8. ゼニアオイ花又は葉50%プロピルアルコール抽出液	0.5	
9. ハトムギ種子50%1,3-ブチレングリコール抽出液	0.5	
10. 茴香果実30%ブタノール抽出液	0.5	
11. 芍薬根又は葉熱水抽出液	0.5	
12. パラアミノ安息香酸エチル	0.2	
13. 酸化防止剤 (ブチルヒドロキシトルエン)	適量	20
14. 香料 (ヤグルマギク水)	適量	

【0115】

(処方例17) クリームファンデーション (O/W型)		質量%	
1. ステアリン酸		4.0	
2. モノステアリン酸グリセリン		3.0	
3. セタノール		1.5	
4. ミリスチン酸イソプロピル		7.0	
5. 流動パラフィン		10.0	
6. サラシミツロウ		3.0	10
7. トリエタノールアミン		1.5	
8. グリセリン		3.0	
9. ベントナイト		1.0	
10. 酸化チタン		8.0	
11. 2,4-ジヒドロキシベンゾフェノン		8.0	
12. カオリン		3.0	
13. タルク		3.0	20
14. 着色顔料 (黄酸化鉄)		1.0	
15. レモングラス根皮又は根茎熱水抽出液乾燥粉末		0.2	
16. ドクダミ葉熱水抽出液乾燥粉末		0.2	
17. 温州蜜柑果皮又は果実熱水抽出液乾燥粉末		0.2	
18. ユキノシタ全草熱水抽出液乾燥粉末		0.2	
19. 防腐剤 (フェノキシエタノール)		0.1	
20. 香料 (ローズ水)		適量	30
21. 精製水	100とする残余		

【0116】

(処方例18) シャンプー

	質量%	
1. ラウリル硫酸トリエタノールアミン	5.0	
2. ポリオキシエチレンラウリルエーテル硫酸ナトリウム	12.0	
3. 1,3-ブチレングリコール	4.0	
4. ラウリン酸ジエタノールアミド	2.0	
5. エデト酸二ナトリウム	0.1	
6. レモングラス全草20%2,3-ブチレングリコール抽出液	2.0	10
7. ハマメリス樹皮熱水抽出液	2.0	
8. 菖蒲花又は根茎30%1,4-ブチレングリコール抽出液	2.0	
9. セイヨウトチノキ全草30%1,3-ブチレングリコール抽出液	1.0	
10. 当帰根30%1,4-ブチレングリコール抽出液	1.0	
11. ヒドロキシプロピルキトサン溶液	1.0	
12. ムコ多糖体溶液	1.0	
13. グリチルリチン酸ジカリウム	0.1	20
14. 抗菌・防腐剤 (感光素101号)	適量	
15. pH調整剤	適量	
16. 香料 (白檀水)	適量	
17. 精製水	100とする残余	

【0117】

(処方例19) リンス	質量%	
1. 塩化ステアリルトリメチルアンモニウム	3.0	
2. セトステアリルアルコール	3.0	
3. ポリオキシエチレンラノリンエーテル	3.0	
4. プロピレングリコール	5.0	
5. 1,2-ペンタンジオール	2.0	
6. レモングラス葉又は茎50%2,3-ブチレングリコール抽出液	5.0	10
7. トウキンセンカ花50%1,3-ブチレングリコール抽出液	1.0	
8. レンゲソウ葉50%2,3-ブチレングリコール抽出液	1.0	
9. 茴香果実30%1,2-ブチレングリコール抽出液	1.0	
10. 黄連根茎50%1,3-ブチレングリコール抽出液	1.0	
11. コンフリー葉又は茎50%1,3-ブチレングリコール抽出液	1.0	
12. 大豆種子納豆菌発酵液	0.5	
13. ヒドロキシエチルキトサン溶液	0.5	20
14. トレハロース溶液	0.5	
15. 加水分解シルク溶液	0.5	
16. 抗菌・防腐剤 (塩化ベンザルコニウム)	適量	
17. 香料 (葡萄水)	適量	
18. 精製水	100とする残余	

【0118】

(処方例20) リンス	質量%	
1. 塩化ステアリルトリメチルアンモニウム	2.0	
2. セトステアリルアルコール	2.0	
3. ポリオキシエチレンラノリンエーテル	3.0	
4. プロピレングリコール	5.0	
5. エチレングリコール	3.0	
6. レモングラス葉又は茎50%1,3-ブチレングリコール抽出液	1.0	10
7. 西洋菩醗樹果皮又は果実50%1,4-ブチレングリコール抽出液	1.0	
8. オリーブ葉50%1,2-ブチレングリコール抽出液	1.0	
9. 枇杷葉50%エタノール抽出液	1.0	
10. センブリ全草50%1,3-ブチレングリコール抽出液	1.0	
11. ムクゲ果実又は花50%1,3-ブチレングリコール抽出液	1.0	
12. トレハコース溶液	1.0	
13. 加水分解ケラチン溶液	1.0	20
14. 抗菌・防腐剤 (塩化ベンザルコニウム)	適量	
15. 香料 (カミツレ水)	適量	
16. 精製水	100とする残余	

【0119】

(処方例21) ヘアーリキッド

質量%

1. エタノール	29.0	
2. ポリオキシプロピレンブチルエーテルリン酸	10.0	
3. ポリオキシプロピレンモノブチルエーテル	5.0	
4. トリエタノールアミン	1.0	
5. レモングラス葉50%1,3-ブチレングリコール抽出液	1.0	
6. トルメンチラ根又は根茎50%1,3-ブチレングリコール抽出液	1.0	10
7. ホップ雌花穂50%エタノール抽出液	1.0	
8. メリッサ全草50%エタノール抽出液	1.0	
9. ウスパサイシン根茎30%エタノール抽出液	1.0	
10. 白樺樹液	1.0	
11. 塩化カルプロニウム	0.3	
12. ヒノキチオール	0.5	
13. ケラチン分解溶液	0.5	20
14. グリチルレチン酸ステアリル	0.1	
15. 抗菌・防腐剤 (パラベン、塩化ベンザルコニウム)	適量	
16. 香料 (ローズヒップ水)	適量	
17. 精製水	100とする残余	

【0120】

(処方例22) ヘアーリキッド

	質量%	
1. エタノール	29.0	
2. ポリオキシプロピレンブチルエーテルリン酸	10.0	
3. ポリオキシプロピレンモノブチルエーテル	5.0	
4. トリエタノールアミン	1.0	
5. トリメチレングリコール	5.0	
6. レモングラス樹皮50%1,3-ブチレングリコール抽出液	3.0	10
7. センブリ葉又は茎50%1,2-ブチレングリコール抽出液	1.0	
8. オタネニンジン根熱水抽出液	1.0	
9. カミツレ全草30%エタノール抽出液	1.0	
10. リンゴ果実30%エタノール抽出液	1.0	
11. 白樺樹液	1.0	
12. アズレン	1.0	
13. 抗菌・防腐剤 (パラベン、塩化ベンザルコニウム)	適量	20
14. 香料 (ラベンダー水)	適量	
15. 精製水	100とする残余	

【0121】

(処方例23) ヘアーリキッド

質量%

1. エタノール	40.0	
2. オレイン酸エチル	1.0	
3. ポリオキシエチレン(40)硬化ヒマシ油	2.0	
4. 製造例1のレモンガラス抽出液	5.0	
5. コンフリー葉又は茎50%エタノール抽出液	3.0	
6. 柚子葉又は果実50%エタノール抽出液	3.0	10
7. 大豆種子納豆菌発酵液	1.0	
8. ハマメリス葉又は樹皮熱水抽出液	1.0	
9. コンフリー葉又は茎50%エタノール抽出液	1.0	
10. 枇杷葉30%エタノール抽出液	1.0	
11. 塩化カルプロニウム	0.3	
12. パンテチン水溶液	0.3	
13. アミノ酸又はその誘導体 (リジン、アラニン、ピロリドンカルボン酸等)	3.0	20
14. 抗菌・防腐剤(パラベン、塩化ベンザルコニウム)	適量	
15. 香料(バラ水)	適量	
16. 精製水	100とする残余	

【0122】

(処方例24) ヘアートニック

質量%

1. エタノール	40.0	
2. オレイン酸エチル	1.0	
3. ポリオキシエチレン(40)硬化ヒマシ油	2.0	
4. 製造例2のレモンガラス抽出液	5.0	
5. 防腐剤(パラベン)	適量	
6. 精製水	100とする残余	

【0123】

30

40

(処方例25) ヘアートニック

質量%

1. 1-メントール	0.2	
2. エタノール	32.5	
3. ポリオキシエチレン硬化ヒマシ油	0.5	
4. プロピレングリコール	5.0	
5. 塩酸ジフェンヒドラミン	0.3	
6. レモングラス果実又は果皮熱水抽出液	2.0	10
7. ラベンダー花又は花穂熱水抽出液	1.0	
8. ピロウドアオイ根茎又は根皮50%エタノール抽出液	1.0	
9. オウゴン根茎又は根皮50%エタノール抽出液	1.0	
10. 枸杞根茎又は根皮50%エタノール抽出液	1.0	
11. 大豆種子熱水抽出液	1.0	
12. セイヨウトチノキ種子又は枝葉30%エタノール抽出液	1.0	
13. カルボキシメチルキチン溶液	1.0	20
14. 鶏冠抽出溶液	0.2	
15. ビタミンE誘導体	0.2	
16. パンテチン水溶液	0.2	
17. 防腐剤 (フェノキシエタノール)	適量	
18. 香料 (セージ水)	適量	
19. 精製水	100とする残余	

【0124】

30

(処方例26) 育毛・養毛剤

	質量%	
1. エタノール	60.0	
2. レモングラス全草50%グリセリン抽出液	2.0	
3. タチジャコウソウ全草50%プロピレングリコール抽出液	2.0	
4. ビタミンE誘導体	0.5	
5. トウガラシチンキ	0.5	
6. レゾルシン	0.5	10
7. グリチルリチン酸ジカリウム	0.5	
8. カルボキシメチルキチン溶液	0.5	
9. コラーゲン蛋白質酵素分解液	2.0	
10. 豚ヘマチン液	0.5	
11. 豚ムチン溶液	0.5	
12. アミノ酸 (アルギニン、グリシン、グルタミン等)	0.5	
13. 抗菌・防腐剤 (パラベン)	0.1	20
14. 香料 (ローズマリー水)	適量	
15. 精製水	100とする残余	

【0125】

(処方例27) 育毛・養毛剤

質量%

1. エタノール	60.0	
2. レモングラス葉又は茎50%グリセリン抽出液	1.0	
3. センブリ全草60%エタノール抽出液	1.0	
4. 牡丹根茎又は根皮60%エタノール抽出液	1.0	
5. ヨモギ葉又は茎50%1,3-ブチレングリコール抽出液	1.0	
6. 大豆種子納豆菌発酵液	1.0	10
7. カンタリスチンキ	0.5	
8. パントテン酸誘導体	0.2	
9. β -グリチルレチン酸	0.2	
10. レゾルシン	0.2	
11. サリチル酸	0.2	
12. ヒドロキシエチルキトサン溶液	0.2	
13. エラスチン加水分解液	0.2	20
14. ケラチン蛋白質酵素分解液	0.2	
15. 抗菌・防腐剤 (パラベン)	0.1	
16. 香料 (ラベンダー水)	適量	
17. 精製水	100とする残余	

【0126】

(処方例28) 顆粒浴用剤

質量%

1. 炭酸水素ナトリウム	55.0	30
2. 無水硫酸ナトリウム	30.0	
3. ホウ砂	3.0	
4. レモングラス葉又は茎熱水抽出液乾燥粉末	2.0	
5. 桃葉熱水抽出液乾燥粉末	2.0	
6. キイチゴ果実50%エタノール抽出液乾燥粉末	2.0	
7. 枇杷葉50%エタノール抽出液乾燥粉末	2.0	
8. ホオノキ樹皮熱水抽出液乾燥粉末	2.0	40
9. 絹蛋白質酵素分解液乾燥粉末	2.0	
10. 色素 (グンジョウ緑)	適量	

【0127】

(処方例29) 顆粒浴用剤	質量%
1. 炭酸水素ナトリウム	58.0
2. 無水硫酸ナトリウム	30.0
3. ホウ砂	3.0
4. レモングラス全草熱水抽出液乾燥粉末	3.0
5. セイヨウニワトコ花又は漿果熱水抽出液乾燥粉末	1.0
6. カワラヨモギ葉又は茎熱水抽出液乾燥粉末	1.0
7. 温州蜜柑果皮又は果実50%エタノール抽出液乾燥粉末	1.0
8. 桃葉70%エタノール抽出液乾燥粉末	1.0
9. 菖蒲葉又は根70%エタノール抽出液乾燥粉末	1.0
10. 林檎果汁粉末	1.0
11. 色素 (ゲンジョウ、水酸化クロム)	適量
12. 香料 (葡萄水)	適量

10

【0128】

20

(処方例30) 被覆保護剤

ガーゼ又はリニメント布にレモングラス果実又は葉熱水抽出液、抗生物質、抗炎症剤等、適量を混合した処方液を含浸させ、外傷部に添付する。又、レモングラス果実又は葉熱水抽出液を直接、局所に散布し、ガーゼ等で被覆しても良い。

【0129】

(処方例31) 口中清涼剤	質量%
1. エタノール	20.0
2. グリセリン	15.0
3. ポリオキシエチレン硬化ヒマシ油	1.0
4. サッカリン	0.2
5. クロロヘキシジン	0.01
6. レモングラス葉又は茎熱水抽出液乾燥粉末	0.1
7. 林檎果実熱水抽出液乾燥粉末	0.1
8. 緑茶葉熱水抽出液乾燥粉末	0.1
9. 色素 (ゲンジョウ緑)	適量
10. 精製水	100とする残余

30

40

【0130】

(処方例32) 食器用洗剤		質量%
1. アルキル (C12) グルコシド		20.0
2. ポリオキシエチレン (3) ドデシルエーテル硫酸Na		10.0
3. グリセリン		2.0
4. エタノール		5.0
5. レモングラス果実又は果皮熱水抽出液乾燥粉末		2.0
6. 大豆種子熱水抽出液乾燥粉末		2.0
7. アロエベラ葉又は茎熱水抽出液乾燥粉末		2.0
8. 精製水	100とする残余	

10

【0131】

(処方例33) めんつゆ		質量%
1. 醤油		80.0
2. 黒酢		2.0
3. ブドウ糖		13.0
4. グルタミン酸ソーダ		2.0
5. レモングラス葉熱水抽出液乾燥粉末		1.5
6. ラカンカ熱水抽出液乾燥粉末		1.5

20

【0132】

(処方例34) うどん又はそば		質量%
1. 小麦粉又はそば粉		89.0
2. 食塩		1.0
3. レモングラス全草熱水抽出液乾燥粉末		2.0
4. 林檎果実熱水抽出液乾燥粉末		2.0
5. 緑茶葉熱水抽出液乾燥粉末		2.0
6. 枇杷葉熱水抽出液乾燥粉末		2.0
7. 柚子果実熱水抽出液乾燥粉末		2.0

30

【0133】

40

(処方例35) 飲料

質量%

1. ブドウ糖液糖	30.0
2. グレープフルーツ果汁	50.0
3. レモングラス葉又は茎熱水抽出液乾燥粉末	9.0
4. ムコ多糖体溶液	4.0
5. イヨカン果汁	7.0
6. 香料	適量
7. 酸味料	適量

10

【0134】

(処方例36) パン

質量%

1. 小麦粉	80.0
2. 食塩	1.0
3. ブドウ糖	8.0
4. レモングラス果実又は果皮熱水抽出液乾燥粉末	3.0
5. アーモンド種子熱水抽出液乾燥粉末	2.0
6. シソ葉熱水抽出液乾燥粉末	2.0
7. カルボキシメチルキチン溶液	2.0
8. ビタミンE	1.0
9. ヘム鉄	1.0

20

【0135】

(処方例37) ソーセージ

質量%

1. ひき肉	85.0
2. 鶏卵	5.0
3. 香辛料	1.0
4. 調味料	1.0
5. レモングラス葉又は樹皮熱水抽出液乾燥粉末	4.0
6. トウガラシエキス	4.0

30

40

【0136】

(処方例38) ガム

	質量%	
1. メントールミクロン	30.0	
2. グレープフルーツフレーバー	60.0	
3. レモングラス根茎熱水抽出液乾燥粉末	4.0	
4. 柚子果実熱水抽出液乾燥粉末	2.0	
5. ヨモギ葉又は茎熱水抽出液乾燥粉末	2.0	
6. タンニン	2.0	10

【0137】

(処方例39) みそ汁

	質量%	
1. 豆腐	30.0	
2. 油揚げ	5.0	
3. ニンジン	5.0	
4. ゴボウ	5.0	
5. 白菜	5.0	20
6. 赤味噌	20.0	
7. 製造例1のレモングラス抽出液乾燥粉末	5.0	
8. かつおだし	適量	
9. 精製水	100とする残余	

【0138】

(処方例40) クッキー

	質量%	
1. 牛乳	62.0	30
2. 全卵	14.5	
3. 砂糖	12.0	
4. コンスターチ	6.0	
5. 食塩	0.5	
6. レモングラス葉熱水抽出液乾燥粉末	5.0	
7. 香料	適量	40

【0139】

(試験6) 使用効果試験

本発明の化粧料組成物を実際に使用した場合の効果について検討を行った。使用テストは脂性肌・ニキビ・湿疹・肌荒れで悩む成人女性20～40歳及び肌の張り・ツヤのない肌で悩む成人女性20～40歳の各10名をパネラーとし、毎日、朝と夜の2回、洗顔後に処方例1の乳液（適量）を顔面に3ヶ月に渡って塗布することにより行った。対照には、乳液から本発明のレモングラス抽出物を除いたものを同様な方法にて処方したものをを用いた。又、評価方法は下記の基準にて行い、結果は表1～2の通りで表中の数値は人数を表す。尚、使用期間中に皮膚の異常を訴えた者はなかった。

【0140】

「皮膚疾患改善効果」

有 効：脂性肌・ニキビ・湿疹・肌荒れが改善された。

やや有効：脂性肌・ニキビ・湿疹・肌荒れがやや改善された。

無 効：使用前と変化なし。

【0141】

「皮膚感触改善効果」

有 効：肌の張り・ツヤが増した。

やや有効：肌の張り・ツヤがやや増した。

無 効：使用前と変化なし。

【0142】

【表1】

10

乳 液	皮膚疾患改善効果		
試 料	有 効	やや有効	無 効
	3ヶ月後		
レモンガラス抽出物	2	7	1
対照品	0	1	9

20

【0143】

【表2】

乳 液	皮膚感触改善効果		
試 料	有 効	やや有効	無 効
	3ヶ月後		
レモンガラス抽出物	3	6	1
対照品	0	1	9

30

【0144】

(試験結果)

表1～2の通り、本発明のレモンガラス抽出物を含有した化粧料組成物は、脂性肌・ニキビ・湿疹・肌荒れを改善し、又、肌に張り・ツヤを与えることが確認された。

40

【0145】

(試験7) 使用効果試験

本発明の飲食品を実際に使用した場合の効果について検討を行った。使用テストは脂性肌・ニキビ・湿疹・肌荒れで悩む成人女性20～40歳及び肌の張り・ツヤのない肌で悩む成人女性20～40歳の各10名をパネラーとし、毎日、朝と夜の2回、処方例39のみそ汁を一杯(約150cc)、3ヶ月に渡って飲用してもらった。対照には、みそ汁から本発明のレモンガラス抽出物を除いたものを同様な方法にて処方したものをを用いた。又、評価方法は下記の基準にて行い、結果は表3～4の通りで表中の数値は人数を表す。尚、使用期間中に異常を訴えた者はなかった。

50

【0146】

「皮膚疾患改善効果」

有 効：脂性肌・ニキビ・湿疹・肌荒れが改善された。

やや有効：脂性肌・ニキビ・湿疹・肌荒れがやや改善された。

無 効：使用前と変化なし。

【0147】

「皮膚感触改善効果」

有 効：肌の張り・ツヤが増した。

やや有効：肌の張り・ツヤがやや増した。

無 効：使用前と変化なし。

10

【0148】

【表3】

みそ汁	皮膚疾患改善効果		
試料 \ 効果	有 効	やや有効	無 効
	3ヶ月後		
レモングラス抽出物	1	7	2
対照品	0	0	10

20

【0149】

【表4】

みそ汁	皮膚感触改善効果		
試料 \ 効果	有 効	やや有効	無 効
	3ヶ月後		
レモングラス抽出物	1	7	2
対照品	0	1	9

30

【0150】

(試験結果)

表3～4の通り、本発明の本発明のレモングラス抽出物を含有した飲食品は、脂性肌・ニキビ・湿疹・肌荒れを改善し、又、肌に張り・ツヤを与えることが確認された。

40

【0151】

【発明の効果】

本発明のレモングラス抽出物を含有したリパーゼ活性促進剤、活性酸素消去剤、化粧品組成物又は飲食品は、リパーゼ活性を促進し、活性酸素も有意に消去・抑制すること。

更に脂性肌・ニキビ・湿疹・肌荒れを改善し、肌に張り・ツヤを与えることができ、皮膚や頭皮の老化防止に有効である。又、人又は動物に対して内用又は外用しても安全であり、あらゆる形態の製剤（医薬品類、医薬部外品類、化粧品類、食品類）に応用することが

50

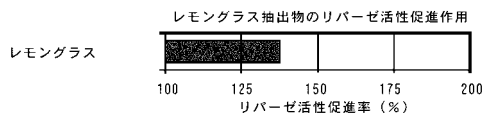
できる。

【図面の簡単な説明】

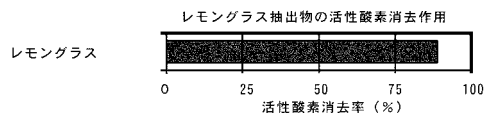
【図 1】 本発明のレモングラス抽出物のリパーゼ活性促進作用を示す図である。

【図 2】 本発明のレモングラス抽出物の活性酸素消去作用を示す図である。

【図 1】



【図 2】



フロントページの続き

(51)Int.Cl. ⁷	F I	テーマコード (参考)
A 6 1 K 7/08	A 6 1 K 7/08	
A 6 1 K 7/26	A 6 1 K 7/26	
A 6 1 K 7/44	A 6 1 K 7/44	
A 6 1 K 7/48	A 6 1 K 7/48	
A 6 1 K 7/50	A 6 1 K 7/50	
C 1 1 D 3/382	C 1 1 D 3/382	

F ターム(参考) 4C083 AA032 AA072 AA082 AA111 AA112 AA122 AB032 AB152 AB212 AB232
 AB242 AB312 AB352 AB442 AC012 AC022 AC072 AC082 AC102 AC112
 AC122 AC132 AC172 AC182 AC212 AC242 AC252 AC352 AC372 AC422
 AC432 AC442 AC472 AC482 AC542 AC582 AC612 AC642 AC692 AC742
 AC782 AC792 AC852 AC862 AC902 AD022 AD042 AD092 AD112 AD212
 AD272 AD322 AD412 AD442 AD452 AD512 AD532 AD552 AD642 AD652
 AD662 BB41 BB48 CC01 CC04 CC05 CC06 CC07 CC12 CC17
 CC19 CC23 CC25 CC33 CC37 CC38 CC39 CC41 DD05 DD12
 DD16 DD22 DD23 DD27 DD28 DD30 DD31 EE06 EE07 EE12
 EE13 EE14 EE17
 4H003 AB27 AB31 AB43 AC13 BA12 DA02 EB16 EB45 EB46 ED02
 ED29 FA34